

研修期間	短期
プログラム (日程)	アメリカ・サンフランシスコ州立大学語学プログラム (2024年2月19日~3月15日)

a)アメリカのサンフランシスコに約1ヶ月滞在し、滞在中はサンフランシスコ州立大学に通いました。宿泊場所はホームステイではなく、Monroe Residence Clubという長期滞在者用のホテルでした。b)現地の大学では午前授業を受けたのですが、授業にはカンパセーションパートナーと呼ばれる現地の先生や生徒たちが混ざり、ネイティブの英語を学ぶことができたのでとても有意義でした。個人的に1番楽しかったことは午後のアクティビティの時間でした。毎日細かくプログラムが組まれており、サンフランシスコの観光地やミュージアムなど、様々なところに行くことができました。特に楽しかったのはpier39というベイエリアで、そこにはたくさんのシーフードレストランやお土産ショップ、アトラクションなどがあり、サンフランシスコをより満喫することができました！私は友達と3回ほど行きましたが、クラムチャウダーを食べたり、お土産を買ったり、アザラシを見たりしてとても楽しかったです。c)私が海外研修期間に感じたことは、語彙を知っているだけではコミュニケーションは出来ない、ということです。英単語を見て意味がわかっていても実際に聞き取れなかったらコミュニケーションはできないですし、咄嗟に知っている英単語を口に出すことは想像よりもずっと難しく、伝えたいことがうまく伝えられなかった場面も沢山ありました。当たり前のことかもしれませんが、コミュニケーションのスキルを上達させる際に最も重要なことは実際に英語を使うことであると改めて思い知ることができた留学でした。1ヶ月という短い期間ではありましたが、日本にいる時よりも英語に触れる機会が増えたため、リスニングやスピーキングのスキルが向上したように感じます。d)現地の気候が日本とはかなり異なっていて、留学前にしっかり知識をつけてからパッキングをすれば良かったと感じました。サンフランシスコは天気の変化が激しく、暑かったり寒かったり気温調整が難しかったり、突然雨が降り出したり大変でした。e)大きな違いとして感じたのは、アメリカ人は日本人より自由度が高いと感じました。もともとアメリカは自由である、というイメージがあったのですが、想像以上に自由だなと感じました。例えば、犬を飼っている人がとても多かったのですが、ショッピングモールの中やバスの中にまで犬を連れていて驚きました。f)現地の大学で様々な人と関わりましたが、出身国もバラバラで、とても多様性を重視しているように感じました。また、サンフランシスコには「ゲイの首都」とも呼ばれるカストロ地区があり、LGBTQをすごく尊重していました。g)留学を通して、自分のいる国とは異なる文化に触れたり、自分とは異なる考えや価値観を持つ人と沢山出会いました。グローバル化も進んでおり、これからはより多文化の尊重が求められると思います。自分の留学を通して学んだ多文化への理解を忘れずにいたいと思います。h)私は留学前にコミュニケーションのための予習として語彙を増やす勉強ばかりしていたのですが、現地についての事前学習が大切だと感じました。日本とは大きく異なる文化や多様性を理解する必要があるからです。そういったことについて知識を持って留学に参加すれば、より有意義な経験にすることができると思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	アメリカ・サンフランシスコ州立大学語学プログラム (2024年2月19日~3月15日)

私はサンフランシスコ州立大学に研修へ行き、宿泊先は monroe residence club というホテルに宿泊した。monroe residence club は、サンフランシスコ州立大学のメインキャンパスまではバスと電車で1時間弱、ダウンタウンキャンパスまではバスで30分ほどでつく立地にありメインキャンパスに行くのには初めは慣れなかった。サンフランシスコ州立大学は、メインキャンパスはとても広くたくさんの生徒がいて、日本語の授業を取っている生徒さんと会った時に私たちに話しかけてくれた。とても流暢な日本語で、日本が大好きだから日本語を学んでいるその姿勢に自分達も頑張ろうと思えた上に、サンフランシスコ州立大学にはたくさんの言語の授業があって色々なことが学べるのだなと思った。

1ヶ月の海外研修の中で、1番楽しかったことは研修プログラムに参加してくれているカンパセーションパートナーと友達になれたことだ。授業が終わった後も、私たちにサンフランシスコと街を紹介してくれたり、一緒にショッピングしたりなどとても楽しかった。その中でも、カンパセーションパートナーがドライブでアイスクリーム屋さんに連れて行ってくれ、その後ツインピークスという丘に連れて行ってくれた。ツインピークスは、夜景で有名な丘で、そこからみる景色はとても綺麗で1番印象に残っている。ドライブ中もオススメの洋楽を教えてくれたり、逆に私たちがオススメの邦楽を教えたりなど今まで知ることのなかった世界を知れてとても感動した。海外研修期間で、学んだ最も重要なことは間違ってもいいから自分からたくさん話すことだと思う。日本にいる時の英語の授業では、間違っていたらどうしよう、伝わらなかつたらどうしよう、と不安を持ってしまい中々自分から話すことができなかつたけど、海外研修では周りにたくさんのネイティブがいて私の言いたいことを理解しようとしてくれるし、教えてくれることで自分で伝える力が育ったと感じる。喋らないとわからないことがそのままになってしまうけど、少しでも伝えようとすることは語学力を伸ばす上で最も重要なことだと感じた。

チャレンジは、お店でのオーダーだった。メニュー表があつてそれを指差せば伝わるけど、あえて自分の言葉でオーダーするように心がけた。特に自分でカスタムをできるお店がアメリカには多く、発音が悪かったりうまく伝わなくて自分のオーダー通りに来ないけども多かつたが、そこで1つ1つ学びを得ることができた。

アメリカと日本の国際的な違いだと感じたことは、自由であるということだ。飲食店でも洋服屋でもアメリカのお店には、犬を連れて入っているお客さんがたくさんいたし、大学内でスケートボードで移動したり、電車に自転車を持って入ったりなど、日本では見たことのない文化だった。私はこの海外研修の経験を、将来の仕事に役立てたいと感じた。研修に行くまでは、日本の文化や習慣にしか触れていなかったが、世界にはまだまだ日本とは大きく違う文化の国があつて、今自分の持っている当たり前も、他の国では違つたりするということを身をもって感じた。なのでこの経験を活かして、将来のやりたいことを考えたり仕事上に役立てたいと感じる。

次の参加者へのアドバイスは、間違ってもいいからたくさん話すことが重要ということを伝えたいと思った。

研修期間	短期
プログラム (日程)	アメリカ・サンフランシスコ州立大学語学プログラム (2024年2月19日～3月15日)

(a) I went to San Francisco in the U.S. I went to San Francisco State University (SFSU) by train and bus. Because SFSU has two campuses main campus and downtown campus, I went to main campus in first week and third week, and downtown campus in second week and forth week. And I joined the San Francisco Discover program during the study abroad. In this program, I had language classes in the morning, and I had activities in the afternoon. In language classes, I learned pronunciation, grammar, and vocabulary, and had opportunities to talk with local students. And in activities, local students took me to many places, such as museums, sightseeing spots, hiking, and art gallery. During I went to San Francisco, I stayed at a hostel. Breakfast and dinner were provided so I could save money. I could stay comfortably, and I didn't have any problems there.

(b) The most enjoyable experience for me was watching NBA. It was first time for me to watch sport game firsthand, and I felt excited even I knew little about rule of basketball game. (c)

The most important thing I learned in terms of foreign language communication is to speak confidently without fear. Through the time of my study abroad, I thought trying to talk as much as I can is important than trying to speak accurately.

(d) I didn't have big challenges, but I thought I should have reviewed pronunciation. There were a few words that I knew how to read but didn't know the accent and it was hard to tell. (e) I was surprised that time sense in the U.S. In Japan, it is common that trains arrive and leave a station at on schedule, but in the U.S., the trains and buses often leave earlier time than schedule. Also, the classes in the university were very relaxing atmosphere. I thought the U.S is more freedom country than Japan.

(f) I saw people who lose their houses spending in the street. Some areas are dangerous because of them, so I was always with four friends. However, the university was so safety place and a very natural school. And there were dogs everywhere such as restaurants, buses, and parks.

(g) Through this experience, I can speak English without fear. That is why I want to use English in business and help foreigners. (H)

I think this program is for students who want to speak English with confidence or understand how English is fun. People like these, I recommend SFSU program. I could make a lot of memories and friends through study abroad.

研修期間	短期
プログラム (日程)	アメリカ・サンフランシスコ州立大学語学プログラム (2024年2月19日~3月15日)

(a) I went to San Francisco, California, the U.S. I stayed at Monroe residence club, where a lot of students from different universities, countries, and areas. And I learned English at San Francisco State University. This school has two campuses in the both rural and urban areas. In the first and the third weeks, I went to the main campus where it is set in the rural area. And the second the fourth weeks, I went to the downtown campus in the city. Both campuses had the very large area and I felt so comfortable spending times there.

(b) The most enjoyable thing in the daily life was that I could go to lots of interesting places. I was able to visit lots of historical venues and where local people often go. I was really glad to lead a life like native people in San Francisco. And what I found interesting in the lectures was that I could learn slangs which are not so famous and only people who speak English make use of. They were not familiar with me at all so I felt I should be able to use them in the daily life when I talk with people from the other countries.

(c) I think that the most important thing I learned during the time of my study abroad in terms of foreign language communication is that we should not try to speak perfect English. Words are more important than the complete grammar while communicating with the other people.

(d) The challenges I met in my cross-cultural experiences is shopping. I bought the musical instrument in the U.S. and I couldn't catch the compensation explanation. This is the moment that I felt communication in the foreign language is difficult.

(e) During my stay in the U.S, I felt this country was very international because there were people from a lot of countries. Also in the university, students there were from America, Europe, and asia.

(f) Students in the university spoke languages from different countries.

(g) I would like to make good use of English skills which I got in this experience in the future.

(h) I advise students to try to talk with lots of people.

研修期間	短期
プログラム (日程)	アメリカ・サンフランシスコ州立大学語学プログラム (2024年2月19日~3月15日)

a)私は、アメリカのサンフランシスコ州立大学に行きました。この大学のキャンパスはメインキャンパスとダウタウンキャンパスの2つのキャンパスがあり、週替わりで2つのキャンパスに通いました。メインキャンパスは比較的広く、緑豊かで図書館やジムなどの施設も備わっていました。また、カフェやピザなどの軽食屋さんも充実していて、学生がのびのびと過ごしていた印象があります。歩いて行ける距離に商業施設もありました。ダウタウンキャンパスは、オフィス街に紛れたビル型の建物で、スタイリッシュな内装でした。お昼はキャンパスを出て近くの飲食店で昼食をとっていました。気軽にキャンパスを出て気分転換できるのがよかったです。宿泊先はモンローレジデンスクラブで、同プログラムをとっているほかの大学の日本人学生も宿泊していたので、学外でも交流できました。部屋の設備(電子レンジの有無など)は部屋によって大きく異なっていました。

(b)一番楽しかったのは午後の遠足で、サンフランシスコやその近辺の観光地を回ることができました。現地の大学生が案内してくださるので、たくさんの見どころに触れられて自分たちで行くよりも有意義に過ごせます。

(c)外国語コミュニケーションについて学んだ最も重要なことは、自分の考えを相手に伝えようとする意志です。私の場合、実際に英語で会話しようとする、アイデアを表現するのに的確な語彙がとっさに出てこなかったり、その実力不足を痛感して消極的になったりしがちでした。しかし簡単な単語で可能な限り情報を伝えることで、話が広がりコミュニケーションを活発にできることに気づきました。つい英語力ばかりを気にしてしまいがちですが、英語はコミュニケーションのためのツールであり、語学力にかかわらずコミュニケーションは会話しようとする姿勢ありきであると感じました。このことに気づいてから、できるだけ長文で受け答えをしようと思うようになり、的確な語彙がすぐに思いつくなど自然と英会話能力は向上したように思います。

(d)異文化経験でのチャレンジにおいては、学内でベトナム料理を食べたことや、地域のカップケーキ屋さんやドーナツ屋さんに行ってみたことで、日本にはない味を体験することができました。困ったのはバスやケーブルカーの乗り方で、支払方法や乗り降りの仕方に慣れが要りました。

(e)日本とアメリカの国際的な違いは、電車の電光掲示板が列車の到着までの残り時間を表示していること、チップ制度で店員の評価が可視化されていることなどです。交通機関が時間通りでないことなどルーズな一面がある一方で、レジ横のチップの瓶などで店員の評価が如実にわかるなど実力主義でシビアなところがあるのが興味深かったです。

(f)多様性について気づいたことは、アメリカは特に多様性の国と言われる通り様々な人がいる反面、居住区や所得が人種でかなり分かれているということです。

(g)この研修での体験は、格差社会などについて調べ、今後のゼミの研究などに生かしていきたいです。

(H)次の参加者へのアドバイスは、あらかじめ交通機関について調べておくことです。通学につかういつものバス停は、配布される定期券では乗れない路線なども通っているので、クリッパーカードという日本でいうスイカのようなものをスマホに入れておくと便利です。

研修期間	短期
プログラム (日程)	アメリカ・サンフランシスコ州立大学語学プログラム (2024年2月19日~3月15日)

(a) 私は、アメリカのサンフランシスコに1ヶ月留学していました。大学はサンフランシスコ州立大学に通っていましたが、サンフランシスコ州立大学には、メインキャンパスとダウンタウンキャンパスがあり、隔週ごとに通いました。メインキャンパスは、中心地から少し離れていましたが、自然が豊かで広大な敷地でした。フードコートがあり、多種多様なメニューがありました。ジムやストア、図書館など施設が充実していました。ダウンタウンキャンパスは、サンフランシスコの中心地にあり、メインキャンパスとは異なり小さい建物ではありましたが、とても綺麗でした。ダウンタウンキャンパスには、メインキャンパスのような施設はありませんでしたが、中心地にあるため近くに飲食店やショップが多くありました。宿泊先は、モンローレジデンスクラブという場所で、サンフランシスコの中心地にありました。部屋は1人部屋で、お風呂や冷蔵庫、電子レンジがついていて、1ヶ月不自由なく過ごすことができました。そこには食堂があり、朝食と夕食はそこで取ることができました。

(b) 一番楽しかったことは、授業後のクラスアクティビティーです。SFSUの学生と、サンフランシスコの観光地や、美術館に行きました。また、クラスアクティビティーとしてシリコンバレーに行く日があり、グーグルやアップルの本社を目にすることができ、いい経験になりました。現地の学生と共に過ごすことによって自分の英語力向上にもつながりました。

(c) 外国語コミュニケーションでは、ただ言葉で伝えようとするのではなく、それに加えてジェスチャーを使うことも大事だと感じました。ジェスチャーを使うことで、自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができました。英語圏で過ごす上で必要な日常会話を間近で感じ、実際に使うことで、自分の英語力の向上を実感しました。

(d) 日本ではすぐ病院に行ったり薬を安価で買うことができますが、アメリカでは病院に行くにも薬を買うにも膨大な金額がかかるので、体調を崩した時に苦労しました。薬は念のために多めに持っていくことをお勧めします。

(e) トイレの少なさに国際的な違いを感じました。サンフランシスコには、ホームレスが多く、治安があまりよくないエリアがあるので、公衆トイレやトイレを貸し出しているお店が少なかったです。トイレがあるお店でも、物を購入しないと貸し出してくれない場合もありました。

(f) サンフランシスコには「castro」というジェンダーレスな街がありました。カストロには、LGBTQの人たちを肯定することを示すレインボーの旗が町の至る所にあり、日本とは違う光景を目にして多様性を感じました。

(g) 今回の海外研修では、多様性を感じることができました。その経験を活かして自分も広い視野を持って、多種多様な人々と関わっていきたいと考えました。

(h) アメリカの文化や、制度について学びたい人にはお勧めします。英語が苦手な人でも、先生が優しく教えてくれるので、1ヶ月楽しく過ごすことができると思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・Beet Language Centre 語学プログラム (2024年2月26日～3月29日)

(a)イギリス ボーンマス 学校 beet language centre ホームステイ (b)ホームステイ先が同じだった他の国の学生と一緒に毎日夕食を食べたこと。授業では、グループディスカッションを通じて交流したこと。毎日、夜にアクティビティがありダンスやゲームなどをしたこと。 (c)スピーキング力が不足していることが分かった。わかりやすく端的に表現することが重要であることがわかった。毎日英語に触れていたためリスニング量が向上した。また、イギリスのアクセントにも慣れることができた (d)私が行ったボーンマスは、住宅街が広がり落ち着いた地域であったが、自動車の路上駐車が多く道が狭い上に、ゴミが散乱している場所もあり道路の整備に差を感じた。泊まった家も掃除はめったにしていなく、あまり綺麗さにこだわりをもっていない気がした。日本では道にゴミが落ちていることはあまりなく、家も頻繁に掃除することが多いので清潔さにおける文化の違いを感じた。 (e)政治がトピックになっている授業を受けた際に、海外の生徒は自国の政治についての知識をしっかりとっていて、政治に対する意見もはっきりと持っていることが多かった。日本の若者は、私も含め政治に関心を持たない人が多いので国際的な違いを感じた。 (f)私がイギリスにいて感じたことは、イギリスをはじめ、海外の人たちは、多様性を無理に受け入れようとせずどんな人に対しても平等に接しているように感じた。変に気を遣われることがなく、自然体で話してくれることで、日本にいるときよりも周りの目を気にせずに行動することができたように感じた。 (g)私は語学留学だったので、中学高校で学んだ英語をもう一度集中的に学ぶことができた。新しい知識よりも今まで学んできたことを復習できた部分が多かったため、日本でもう一度復習をして定着させたい。そして TOEIC など資格試験を受ける計画を立て、そこに向けて努力していきたい。 (h)ボーンマスは、ロンドンなどの大都市に比べ落ち着いており治安の心配もないため非常に生活しやすい街である。ロンドンへも2時間ほどで行けるため週末など休みの日に遊びに行ける。また、英語の訛りもなく非常に聞き取りやすい。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・Beet Language Centre 語学プログラム (2024年2月26日~3月29日)

a) イギリスへ海外研修に行きました。イギリスで過ごす間はホームステイで暮らしていました。ホームステイ先は通っていた BEET Language school の職員の家でした。独身男性 1 人の家かつ、他の留学生もいなかったため家では 1 人で過ごすことも多かったです。ステイ先の男性はすごくフレンドリーで毎日一緒に夕飯を食べ、夕飯後は Netflix を見たり一緒にタバコを吸ったりくつろいで過ごすことができていました。

b) 授業は文法の授業が多く理解しやすいものが多かったです。BEET はナイトアクティビティがあり、夜他の留学生と過ごすことが多かったです。他の留学生もフレンドリーなことが多く、授業後一緒にご飯へ行ったりお酒を飲みに行ったり学校内でもプライベートでも他国籍の人と過ごす経験ができました。

c) 外国語コミュニケーションに関しては文法を気にしすぎず、話しかけることが大事だと思いました。まずは伝えたいことを自分なりに英語で話せばそれなりに伝わる人が多いです。ステイ先のホストファザーが学校の職員だったため、話してる中で文法を直してくれることもあり良い経験でした。自分の文法を気にして話さないよりも、他の人と英語で会話し、他の人が使う表現を学び次は自分が使えるようにするという学習方法を実践していました。スピーキングやリスニングの点に関しては能力が向上したと感じました。

d) 特に食事が合わなかったり、日常生活に支障がきたす程の文化の違いは感じませんでした。ただ自分に合う薬を見つけることは困難なため、薬を多く持って行けばよかったと感じています。乾燥していたためのだらみやのど薬が必要だと思いました。

e) お店の職員や街を歩いているだけで話しかけられることが多く、日本よりもフレンドリーだと感じました。また、何かを買ったり食事に行く際に現金を使う人はほとんど居なくキャッシュレス決済が主流でした。日本も増えていると思いますがそれ以上にカードやスマホ決済が多く楽でした。

f) 日本よりも移民や他の国の人が住んでることが多く、特に各々の宗教への理解が深いと感じました。特に自分が行っていた時はラマダンが始まったため、そこは周りが気を使い、食事であったりコーヒーの話などは避けるようにしました。会う時も太陽が沈んだ後食事をして元気な時に会ったりしていました。

g) 文化の差異を学んだため、日本でも外国人や留学生に会った際その経験を活かしコミュニケーションを取りたいと思いました。また就活やこれから就職した後に自分の仕事に活かしていきたいです。

h) 他の国籍の人と話すことは自分の知見が広がり良い経験になると思うので積極的にコミュニケーションはとるのが良いと思います。他の人と話すことが一番英語力の向上に繋がります。



研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・Beet Language Centre 語学プログラム (2024年2月26日~3月29日)

a) イギリスにある Beet language centre に5週間通い英語を学びました。宿泊先は語学学校が手配したホームステイでした。

b) 語学学校で知り合ったほかの国からきている友だちと英語で話している時間が最も楽しかったです。留学として語学学校へ通うことのメリットとして、自身と同じレベルで英語を話す多国籍の人と知り合えることが挙げられると思います。私は消極的な性格なので、相手が自身と同じように英語を第二言語として学んでいる人と話すことで、自分の英語力を不安に感じて臆することなく、会話をすることができました。

c) 語学学校の先生も仰っていたのですが、日本人や韓国人はスピーキングの際に間違えることを恐れすぎる傾向にあると感じました。留学の際には、先生はもちろんホストファミリーや周囲の友だちに間違っていたら指摘してねと伝えておけば、自分の間違いに気付いた正しい表現も学べるので、頭で文法を考えるよりも先に話す努力をするべきだと思います。

d) ホームステイだったため、ホストファミリーの生活スタイルに合わせる必要がありました。また私を受け入れてくださった家は、私以外の留学生も複数受け入れていたため、彼らの生活スタイルについても同じように考慮しながら生活していました。通例日本人は主張することがあまり得意ではなく遠慮しがちだと言われますが、ホームステイ先の共有スペースの汚れなど、自分自身が原因のものではないが自分で片付けられるものをホストファミリーに報告せず片付けたときは、遠慮せずに私たちに言ってねとよく言われました。

e) 現地の語学学校ではかなり生徒からの発言が多く、それが最も印象的でした。わからない単語があったとき、日本人は電子辞書を持っている人が多かったのものでそれで調べていましたが、他の国から来た子は先生にその意味を尋ねていて、その様子を見て徐々に私も先生に聞けるようになっていきました。イギリスは紅茶で有名だということは事前に知ってから渡航したのですが、紅茶を飲む時間だけでなく家族や友だちと集まって紅茶を飲む際に生まれるコミュニケーションにも大きな価値を感じました。ホームステイ先のお宅では、夕食の後にデザートと紅茶を必ず出されて、その時間に今日あった出来事や夕食後の予定などを話す習慣があり、そこでハウスメイトの国の文化について理解を深めたり、習った英語表現を実際に使えたり、有意義な時間を過ごすことができました。

f) 私が行った地域はサウジアラビアなどの中東からきている人が多く、ハラール対応の食事を提供するお店が多かったりモスクが町の中心部にあったりと、イスラム教への理解が日本よりも格段に進んでいると感じました。

g) 海外の人と話すことの楽しさを実感したので、英語を学ぶ新たなモチベーションを得ることができました。英語を聞く機会は日本に帰ってきて格段に減ってしまいましたが、それでもニュースや音楽、映画を通してリスニングの機会を得たいと思います。

h) ホームステイは不安だと思いますが、基本的に語学学校の周辺の家には振り分けられるため、近くに友だちが住んでいる状態であることが留学中の心の支えになります。職員さんも勉強のことだけでなく、観光に使う交通手段から買い物の相談まで気軽に聞けるのでとても頼りになると思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・Beet Language Centre 語学プログラム (2024年2月26日~3月29日)

A、イギリスのボーンマスに行きました。宿泊形態はホームステイでした。 B、語学学校で一番楽しかったことは夜のナイトアクティビティです。他の国の生徒たちとの交流が広がるのがいいと思いました。 C、研修に行ってから自分の中で変わったなと感じたことは外国人と話すことに対して緊張しなくなったということです。研修に行く前は普段のプライベートで英語を話すときに間違いをしてしまうのではと色々考えて話すことが出来ませんでした。しかし、研修に行き考えが変わり自分に言いたいことが伝わればいいということになりました。なので研修先では自分の知っている言語を並べてジェスチャーをつけながら話すことで友達や店員さんとも話すことが出来ました。 D、行く前に準備しとけばよかったと思ったことはもっとボキャブラリーを増やしておけばよかったと感じました。 E、研修先のイギリスと日本との違いで感じたことは店員さんの態度です。日本の店員さんの態度を普通と思い海外に行ったら海外の店員さんの態度の悪さにカルチャーショックを受けてしまうと思います。 F、宿泊したホームステイ先では家族との会話を大切にしていると感じました。その日に起こった出来事を食事中に喋ったり、家の中で様子を確認したりと色々な面でそう感じました。 G、初めて海外に行ってから日本のありがたみを知ることが出来たので日本の役に立つ仕事をしたいというモチベーションが出来ました。 H、研修先が開催するイベントなどは行っておくべきだと感じます。そこで出会う友達とは学校以外でも仲良くすることができるのでとてもおすすめです。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・Beet Language Centre 語学プログラム (2024年2月26日~3月29日)

[a] I went to Bournemouth of England and was commuting to Beet Language School. There was great school because there were kind and excellent teachers. In addition, there were many students who come from foreign countries so I could learn several foreign customs that I did not know. [b] I enjoyed table tennis after class with friends because the competition of table tennis was held at every Thursday. And there were many night activities except weekends for examples Mafia Game, karaoke, conversation circle and so on. [c] I found that it is not shameful to make grammatical mistakes when speak English. And my teacher said to me it is most important to try to speak English. After I found that I started to try to speak English without fear of failure. So, I could improve my speaking skills. [d] I regret that I hadn't improved my listening skill before arriving at England because I couldn't understand what my host family was talking about. If I have opportunity to visit foreign countries in the future, I would improve my listening skill before that. [e] I found many differences between Japan and England. In particular, that there is no custom to say something before eating meal makes me be surprised. As this behavior is considered disrespectful in Japan, it took me about a week to get into the custom. [f] I felt that the school respected different cultures. For example, one of my Libyan classmates had a culture called Ramadan. Ramadan includes a fasting period and a time for prayer. The school respected that time and made sure to prioritize it over classes. [g] I decided to live my life respecting other people's feelings. I learned that each person has different ideas and cultures, so I won't deny it when I meet someone who has an idea that I don't understand. [h] Before you go to study abroad, I absolutely recommend that you learn about the culture and customs of the country. In addition, I think it is very important to improve your listening skills before that. If you can't hear what the other person is saying, you can't have a conversation. Listening skills are essential for a good experience to study abroad.

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・IH London 語学プログラム (2024年3月4日~3月29日)

(a)イギリスのロンドンに一月間滞在しました。研修先はIH London で非常に素晴らしい学校でした。図書館やカフェテリアが併設されており、先生方のケアも手厚く、クラス編成も多種多様な国、年齢のかたと友達になることができました。また時々先生との面談があり、クラス変更もしやすかったのが印象的です。また学校のロケーションも観光地から近く、便利でした。ホームステイ先も学校へ行きやすく、ホストファミリーは非常にやさしく、また食事大変おいしかったです。

(b)放課後にIH London でできた友人と一緒に食事をしたりカフェでお話をしたことです。年齢が近かったこともあり、たとえ言語面において障害があったとしても、様々な方法で伝えあったり、普段とは違った会話を楽しむことができました。

(c)重要なのは外国語を使うことを怖がらない、ためらわないことだと思います。これは日本人に多いケースだと感じています。自分が話していることが相手に伝わっているか、あっているかというのを考えすぎるあまり声が小さくなったり、言葉が出てこなくなってしまう。あくまで外国語も1つの言語で、相手に伝えるためのツールにすぎません。伝えることが大事！と考え正確性を求めすぎず、積極的に使っていくことが大事だと思います。

(d)レストランでのマナーや劇場でのマナーをもう少し知っておくべきだと感じました。

(e)街中で音楽が流れていたのが印象的です。少し広い場所さえあればストリートミュージシャンやダンサーがいたり、街に活気がありました。日本だとそういったものは警察によって撤去されてしまいます。私はロンドンの人々がみんなで街を明るくしていく雰囲気がとても好きでした。

(f)あくまで個人的な感想ですが、国や地域によってある程度性格が形成されているように感じました。ディスカッションに意欲的、消極的、自分の意見をはっきり主張する、相手の意見を聞いて考えるなど、クラスの中で出身国による性格の違いを少し感じました。

(g)これからもっとほかの国の文化を体験したいと感じました。長期滞在じゃないとしても、実際に現地に足を運ぶことを大事にしたいです。

(h)たとえ日本人の友人と一緒に留学に行ったとしても、現地での新しいコミュニティを大事にしてほしいと思います。そこでしか出会えない友人と過ごせる時間を大事にしてほしいです。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・IH London 語学プログラム (2024年3月4日~3月29日)

A. イギリスのロンドンに1か月行きました。学校はIH London というロンドンの中心部にある語学学校に通いました。僕が滞在したところは語学学校から電車で1時間ほど離れたノースロンドン Cranley Garden という所に滞在していました。緑が多く、静かな住宅街で夜でも女性の方が1人で歩けるくらい安全なところでした。ホストファミリーはとてもやさしい方々で、ご飯も毎回作ってくれました。イギリス料理など作ってくれてイギリスの文化もホームステイで感じられました。

b. 通っていた語学学校がロンドンの中心部にあるため、授業後、様々な有名な場所に行けたのはとても楽しかったし、いい経験でした。例えば学校から徒歩10分以内のところに大英博物館があり3, 4回ほどいきました。他にもビッグベンやピカデリーなどもすぐ近くにあり、ロンドンの生活に飽きることはありませんでした。その中でも一番楽しかったことはサッカー観戦でした。僕は1か月の間に2試合観たのですが、どちらもとてもいい試合で、日本のサッカー観戦とは違う雰囲気での経験になりました。

C. 外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは文法の必要の無さです。海外では文法がめちゃくちゃでも全然コミュニケーション取れますし、全然相手は気にしてなかったです。特に日本人は学校で英語を文法でしか学んでないためめちゃくちゃ文法を気にしてコミュニケーションが難しくなっていたように思います。なので大事なのは単語力でそこまで文法はいらないと学びました。僕はホストファミリーや友達との会話の中でイギリスのスラングなどを学ぶことができました。現地のスラングを覚えておくと会話がスムーズになって会話するのが楽しかったです。

D. 異文化経験でのチャレンジはフランスに行ったことです。週末にフランスに行ったのですが、フランスは英語はあまり通じなかったためちょっとチャレンジでした。でも何とかだったので良かったです。同行者が優秀でした。

E. 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことは、授業の態度です。授業中、海外の生徒は先生にめっちゃ質問をしたりしてコミュニケーションをとっていたので、日本の学校の授業とは違って国際的だと思いました。

F. あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気づいたことは、いろんな人種がイギリスにいることです。インド人やアラブ人、アフリカ系が特に多かったと思うのですが、イギリスは難民などを多くとっていたのでこのように様々な人種がいて料理も様々なイスラム、ヴィーガン料理などがいっぱいありました。その点多様性を感じました。しかし様々な人種がいることによりトラブルなども多い為いいことだけではないと思いました。

G. 今後海外研修の体験を大学の授業などで生かしたいです。積極的に授業に参加したり、質問したりしたいです。

H. 次の参加者へのアドバイスは携帯を頑張って守ってください。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・IH London 語学プログラム (2024年3月4日~3月29日)

(a) 3月の1ヶ月間イギリス (b) クラスが同じになった韓国人の友人たちと一緒にお互いの文化の料理を食べに行ったこと。韓国料理を食べながら韓国語を少し学んだり、和食を食べに行った際には日本語を教えたりなどして、お互いの言語を教え合ったのが授業後の貴重な経験になった。また、基本は英語で会話していたので英語、日本語、韓国語とさまざまな言語が会話で飛び交っていたのが、日本ではなかなか経験できないことだと感じた。 (c) 海外研修期間で最も学んだことは言葉がすらすら流暢に出てこなかったとしても、とありあえず話してみることだと感じた。人種が違うことは見た目ですぐにわかるから、知っている単語を話してみれば現地の人でも理解してくれようとしてくれて、最後の方は会話が普通にできるようになった。最初はホストマザーにも遠慮してお願いしたいことや聞きたいことを我慢してしまう一面があったが、とにかく話してみること、文法などは気にせずにコミュニケーションを取りたい姿勢を見せることが大切だと感じた。 (d) 異文化に触れて困ったことは、電車内で電波が通じず連絡が一才取れなくなってしまうこと、夜は危険だから早めに帰宅しなければいけなかったこと、私して非常にスリが多かったのでエスカレーターや電車内ではリュックを前にして擦られないように注意したり、電車内ではできるだけ寝ないように心がけたりしたことだ。 (e) 日本とイギリスの文化の違いを感じたことで挙げられるのは、まず電車の中である。電波が通じないため、日本とは違って携帯を触っている人が少なかった。その代わりに本を読んだり、駅で配っている新聞をよんだりと有意義な時間を過ごしているのが心地よい環境であると感じた。また、犬も一緒に乗車できることが文化の違いだと感じた。 次に感じたのは食文化で、米は一才食べる機会がなくマッシュポテトやビーンズなどがコメの代わりに毎日出された。調味料の種類も少なく、日本のようにさまざまな調味料を使用している料理ではなかった。 (f) イギリスにはさまざまな人種の人が集まっていたので、イスラム教やキリスト教の影響もあり、教会があったり、ラマダンという断食の決まりを守っている友人もクラスにいたり、それぞれの国の事情があることが、非常に多様性を感じる瞬間だった。 (g) 日常的に英語を使用することが大事だということを、授業、レストランやショッピング、帰宅してからのホストファミリーとの会話で学んだので日本でも海外の人とたくさん話す機会を作ろうと感じた。アルバイトでは渋谷や原宿で、スポーツ用品店で働き、日常的に英語を使わないといけな環境に飛び込むことで、英語で話す姿勢を忘れないようにしようと決めた。また、この経験を活かして海外に行った際は英語で会話ができるように取り組み、仕事でも英語で話せることが可能性を広げることにもつながると感じたので勉強をもっとしていきたいと思った。 (H) もう少し日常的な会話を最初からできるくらいの勉強はしても良いと思った。また、日本人でずっと固まらず現地の友人をたくさん作ってさまざまな国の友人と食事に行き、お互いの文化について話したり学んだりするのが良いと思う。

研修期間	短期
プログラム (日程)	イギリス・IH London 語学プログラム (2024年3月4日~3月29日)

(a) イギリスの IH London で勉強しました。ホルボーンというロンドン中心部の駅が最寄り、学校から徒歩 5 分で大英博物館に行くことができるというような好立地でした。ホームステイ先は学校から電車とバスで 60 分ほどのところにある、年配の女性と猫がいるお宅に滞在させていただきました。落ち着いた住宅街で、近くには公園や緑が多く、休日には地元のサッカーチームが練習をしているのを見ることができました。

(b) 主に 2 つあります。1 つ目は観光です。前述のように学校のすぐ近くにある大英博物館には 1 ヶ月の滞在中に 4,5 回は行きました。日本のブースでは戦国時代の甲冑に多くの人が見入っているのが日本人として嬉しく誇らしかったです。他にもナショナル・ギャラリーではゴッホの「ひまわり」をはじめとする世界的に著名な作品を、ロンドン自然史博物館では多くの化石や標本を見ることができました。ロンドンの博物館および美術館は基本的に入場料が無料ということもあり何回も行くことができるので個人的にはとても嬉しかったです。1 番の思い出は、幼少期から大好きなサッカーを本場で観戦しスタジアムツアーにも参加できたことです。ずっと応援していたチェルシーFC を現地観戦し勝利の雰囲気を感じ、スタジアムツアーではロッカールームで尊敬する選手の席に座ることもでき幸せでした。2 つ目は学校です。13 時過ぎまでは学校の多国籍なクラス (私のクラスはアジア人が多めでした) で文法や表現を面白い先生と学び、放課後は現地のクラスメイトとランチに行ったりショッピングに行き、授業外では生きた英語を学ぶことができ大変楽しかったです。

(c) 英語が上手になったかはわかりませんが、コミュニケーションが上手くなったとは感じています。大切なことは、伝えようとする気持ちと伝え方を工夫することだと感じました。授業を受けてみて、アジアの人は文法をとてもよく勉強し理解しており、対照的にヨーロッパやその他の地域の人には文法の正否に関わらずコミュニケーション能力が高い傾向があると感じました。そこで英語はただのコミュニケーションツールに過ぎないと認識しました。失敗を恐れず伝えようとする、上手くコミュニケーションがとれないときも工夫することが人と人の関わりの中で重要だと再認識しました。イギリス人はコミュニケーションの中でユーモアを大事にする傾向があり、冗談や皮肉をナチュラルに多用するところがとても興味深かったです。

(d) 海外渡航が初めてだった私にとっては基本的にすべてのことがチャレンジでした。食事面ではイギリスはご飯が美味しくないと言われている情報でとてもとても心配していましたが杞憂でした。世界的な都市だということもあり、食事面でもたくさんの選択肢があるし、まさに百聞は一見に如かずだなと感じました。ホストマザーがギリシャ出身の方でディナーではギリシャ料理をいただく機会が何度かありました。1 つを除いてはとても美味しくいただくことができ、食も立派な文化だと改めて感じました。博物館に行った際に日本の歴史を聞かれたこともあり、もう少し日本の歴史を復習して説明できるようになっておけばよかったと感じました。様々な知識があればトピックも幅が広がるし、もう少し深いコミュニケーションにつながったかもしれないので後悔しました。

(e) 初日に驚いたのは、交通事情です。特に自動車はちょっとした車間距離も詰めたり (これについて口論している男性たちにも遭遇しました) ブレーキのかけ方がキツかったり、路上駐車が多く道幅が狭くなっていたりしてとてもビックリしたのを覚えています。バスの時刻表は例えば平日だと 8-13 分間隔というようにアバウトに書かれていて初めは困惑しました。ほとんどの歩行者が車が来ていなければ赤信号でも当たり前のように横断したり (歩行者が強引に横断し近づいてくる車にクラクションを鳴らされているシーンを目にするのも少なくありませんでした)、交通事情で多くの違いを感じました。いい意味でとても印象的だったのは、地下鉄での過ごし方で、ネットワークが繋がらないということもあり、本や改札付近で無料で手に入る新聞などを読む人が多く、ほとんどの人がスマホを扱っている日本とは異なり、個人的にはスマホに依存していない人が多いと考えました。ちなみに前述の新聞は読み終わったら座っていた席に置いて電車を降りる人

も多く、それを次に座った人が読むというようなシーンもあり面白かったです。こういった習慣が経済やビジネスなど社会に対してきちんと自分の意見を話すことができる人が多い理由なのかもしれないとも考えました。 店員さんと砕けた話をしたりすることもあり、日本のある種機械的な接客と異なり、これにかんしてもいいなと感じました。 日曜日は閉まっているお店も多く、日本とは異なる点だなと感じました。 (f) 多様性に関しては想像していたより実感することはありませんでした。様々な人種、様々な価値観がある環境が普通になっていて特別な扱いにもなっていない、いい意味でフラットな状態なのかもしれません。 (g) コミュニケーションや学問的な面で学ぶことも多かった海外研修でしたが、1番活かすべきだと思ったのは姿勢です。今日、時間と労力をかけなくてもインターネットで国境を越えた誰かとやりとりできる時代になったからこそ、実際に訪れてみることで様々な観点からたくさんのことを学ぶことができたし、それが今後の自分の人生の財産になっていくと感じました。たくさん観光したくさんの文化に触れることが今後の自分の目標です。 人と人の関係についても考え直しました。ハグや握手など日本人があまりやらない習慣も含めて、今まで自分が何気なくやっていた、つまり疎かにしていた行動を見直し、言語以外の部分でもコミュニケーションを意識していこうと思っています。 (H) 「郷に入っては郷に従え」という言葉に尽きると思います。目的にもよりますが、その国の文化に触れ最大に楽しむには、自分だけの軸で物事を捉えないことが大事だと感じました。



研修期間	短期
プログラム（日程）	イギリス・IH London 語学プログラム（2024年3月4日～3月29日）

- a) International house London ・ホームステイ      b) International house London では、毎回放課後のイベントを企画している。その中でも、卓球が一番楽しかった。      c)自ら率先して意見を言う      d)文化とは全く関係ないが、ロンドンの物価が異常に高く驚いた。      e)日本では、仕事に行く時スーツを着るのが一般的である。一方、ロンドンではスーツを着て会社に向かう人をあまり見かけなかった。      f)白人だけでなく、アジア人や黒人、性的マイノリティの人などをロンドンの人はきちんと受け入れていた。また、それぞれが自分の個性を大事にしつつ自信を持っているような感じだった。      g)今回の海外研修を大学を卒業して就職した後も活かしたい。      h)ロンドンでは日本と違ってクレジット決済が大半である。ロンドンで色々な所観光した結果帰国する前日にクレジットカードがブロックされた
- 👉 クレジットカードは最低でも二枚は絶対必要。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

私は、オーストラリアのグリフィス大学に留学に行きました。宿泊先は、最寄駅から車で10-15分くらいの場所でした。大学までかかる時間を全てひっくるめると、1時間くらいで大学につきました。私のホストマザーは、毎朝私を最寄駅まで送迎してくれたため、大学に遅刻することは全くなかったです。私の研修先はオーストラリアのゴールドコーストですが、自然が多く、朝と学校終わりの散歩が非常に気持ち良かったです。また、ホストマザーが散歩好きで、家からビーチまでが近いため、二人でよく散歩に行きました。オーストラリアの海は日本の海と違って綺麗で、ほんとうに気持ち良かったです。明日、自然に関しても、剥き出しの自然という感じが日本とおは違って、とても開放的な空間でした。クラスのみんなでBBQをしたことが非常に楽しかった。オーストラリアでは、ビーチ沿いの公園に無料で使えるBBQ施設があって、気軽にBBQができます。食材をみんなで買って、調理して、食べて、これまた無料のビーチバレーのコートがあるのでそれを使ってスポーツをするのが最高だった。本当に、とにかく喋ることが重要。海外の人は、英語が下手とか、上手とかは本当に気にしていなくて、とにかく、自分という楽しいか楽しくないかの判断基準が強いなと感じました。でも、だからと言って面白くなくちゃいけないわけではないです。だから、とにかくいろんな人に話しかける。で、表現とかを盗む。これが外国語の能力が向上する上で大事なことかなと感じました。ホストマザーに褒められるくらい、英語は1ヶ月で上達しました。とにかく、道ゆく人になんでもいいから話しかけるんです。服が可愛いね、とか、髪型クールだね、とか、これだけで海外の人は会話してくれます。不審者だと思われても、一生そこでクラスわけではないのでOKです。困ったことは、特にはないです。難しかったのは、ネイティブスピーカーが気を使わずに早く話すのを聞き取ることです。準備どうこうで解決できる問題ではありませんが、リスニング能力はもう少しレベルアップさせるべきだったかなと思います。文化として違うのは、多様性が認められているということ。本当にいろんな国籍の人がいて、それをお互いが何も気にしないで生きている感じがすごく好きでした。日本で海外から来た人を見ると、思わず目で追ってしまいますが、オーストラリアではそんなことは全くなかったです。日本人だからという理由で差別を受けることは全くありません。あとは、とにかくみんなフレンドリーです。1秒前まで他人だった人と、すぐに仲良くなれます。あと、どれだけ土砂降りでも現地民は傘を使わないのが面白かったです。国籍や宗教がとにかくたくさんありました。初対面で怖いと思う人に対しても、とにかく一回話かけてみるのが重要なのだと知りました。人を印象で判断しない大切さを学ぶことができました。また、ホストマザーにはとにかくいろんなこと、人生についても深く語り合ったので、話した内容を胸に刻んで生きていきたいです。Don't be shy!!! とにかくいろんな人に話しかけて!!! 日本ではおとなしめな僕でも、海外では思い切ってたくさん友達を作ることができました。だから頑張ってください！日本人の友達を海外で作るのは悪いことじゃないと思います！でも、英語でしかコミュニケーションを取れない友達と旅行するのもなかなか楽しいし、自分の実力が向上します！

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

今回オーストラリアクィーンズランド州に位置する Griffith 大学ゴールドコーストキャンパスの語学研修プログラムに参加した。まず初めに学校では、月曜から金曜の週5日間9:00~13:30まで(2時間の授業を2コマ+お昼休憩)約15人の小規模なクラスで授業を行った。クラスには他大学から参加している日本人はもちろん、幅広い国籍や年代の人が所属しており、多様なコミュニケーションをとることができる環境であった。授業の内容としては、週ごとに変わるトピックに対して、グループやペアでディスカッションを行ったり、関連する単語の定義や文法を小テストやクイズなど様々なアクティビティーを通して学んだりなど受動的な授業方式ではなく、積極的に参加することで知識を身につけていくことができた。更に、毎週 writing exam があり、それを先生に添削してもらい、自分で振り返るといった課題に取り組んでいたため、4週間という短期間でも writing のスキルを向上させることができた。トピックの一部は社会問題や経済に関連するものがあり、私が国際社会科学部でこれまでに学んできた知識を活用しながらより深い学びを行うことができた。ここで学んだこととしては、例えば英語が苦手であっても、自分自身の言葉で伝えるということの大切さである。授業外の活動としては、毎週開催されるアクティビティーがあった。Week3では、有料の休日観光プログラムに参加し、バスでパイロンベイまで観光に行った。ゴールドコーストでは見ることのできない広大な自然を肌で感じることもできた。滞在時はホームステイをしており実際に現地の人と交流する機会が多くあった。放課後は主に海に行き、ビーチで時間を過ごした。2月のオーストラリアは夏であるため、非常に暑かったので実際に海で泳いだり、展望台で景色を見たりなど充実した時間を過ごすことができた。ここでの気づきとしては、ゴールドコーストは都心であるにもかかわらず、日本と比べて多くの自然があるということだ。実際に街中でも自然を感じることもできた。オーストラリアでは街のあらゆるところにゴミ箱が設置されており、自然の景観を守る取り組みがされていたのだ。更に、動物も数多く生息していた。パイロンベイでは野生の蛇やイルカを見ることができ、学校の敷地内で野生のカンガルーに遭遇することがあった。日本の都会では考えられない光景を目にすることが多くあった。滞在中は学校から一時間ほど離れた Coomera という地域でホームステイを行った。普段の生活や食事などを通してコミュニケーションをとる練習を行った。また、ホストマザーは日本に興味があり、日本の文化や観光地について一緒に話す機会があった。当初はコミュニケーションをとることが難しく感じていたが、生活していくうちにどのように伝えればいいのかを理解することができ、最終的にスムーズなコミュニケーションを行うことができるまで成長することができた。また、多くのホストファミリーは留学生受け入れに慣れており、様々な面でサポートしてくれたので、特に困ったことはなかった。更に日本と違う点で驚いたのが、通学中や散歩中など道中ですれ違う人たちが話しかけてくれることである。私は毎日最寄りのバス停まで徒歩で向かっていたが、家の近所の方や現地の学生が話しかけてくれることがあり、簡単な挨拶から世間話まで多くの人と話す機会があった。ここでオーストラリアの人のフレンドリーさに非常に驚いた。そして一番感じたことは、オーストラリアは多民族国家であるということである。私のホストマザーはオーストラリア人であったが友達の家族はケニア出身であった。それだけでなく街中にも様々な文化がちりばめられており、多種多様な人々が共存している社会であると感じた。今回の海外研修で学ぶことのできたコミュニケーションの重要性や多文化共生の文化などを今後の学習における一つの観点として生かしていこうと思う。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

私は海外研修先としてオーストラリアの方なら一ヶ月ほど語学留学させていただきました。生活方法はホームステイで3食ついてるととても気さくで優しい人たちでした。留学内で楽しかったことは、さまざまな文化、国の人と共に英語を学びお互いが切磋琢磨して成長していくのがとても楽しかったです。また放課後は友人と出かけて、スポーツをしたり、美味しいごはんを食べに行ったりといつもととは違った文化にふれながら生活することができました。外国語コミュニケーションにおいて最も重要であるのは文法などは関係なく自分の知ってる限りの言葉を使ったりジェスチャーをしてなんとか伝えることである。そうすることによって自然と自分の英語力も上がるうえにどのようなことをすれば会話が伝わるのか学ぶことができる。私の英語力に関してはボキャブラリーが増えたことによる、表現の幅が増えた。そして総合的なリスニング力や新しい英語の訛りを聞いたことによる外国人との会話する時の対応力も向上もすることができた。またよくエッセイを書く授業があったため、会話だけでなく書く力というのも同時に向上させることができた。私が海外で生活をする際の難しいと思ったところはもう少しボキャブラリーを増やしておくべきであると感じた。英語が話せるとはいえ、あっちの人たちは英語が当たり前と話せると思って話してくるため普段の生活で全く使わないような言葉を使ってくる際にその話がわからなかったりすることがあったため、単語数を増やすべきであった。オーストラリアでは生活の時間というものも全く違った。日本では夜まで一日中街は騒々しいがオーストラリアは店などは早く閉まってしまい、10時ごろにはみな就寝しているという生活をしている人が多く見えた。多様性に関してはオーストラリアは多文化の国であるため色々な国籍が違う人たちが仲良く一緒に生活している姿があった。この経験はこれから人生でどのような人たちがこの世の中におり、そのような生活の仕方がある、将来自分の仕事に活かしていきたいと考えた。アドバイスとしては留學生活をどのように生活するかによって自分の成長スピードに圧倒的に差がでてくる。努力しなければ成長しないし、日本人ばかりと生活すれば英語は伸びない。また期間は長そうでも短いので自分から行動しなければ何もなさずに終わってしまうため考えて行動した方がいいと考える。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

(a) どこへ行きましたか？研修先および宿泊先について少し教えてください。(Where did you go? Would you tell us about your study abroad program and host institution as well as housing?) I went to the Gold Coast in Australia. I stayed with a family in Pacific Pines, a family of seven with two other Japanese students. (b)

日常生活またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか？(What did you enjoy most in your daily life and/or in your experiences in classes and after-class activities on campus?) Compared to Japanese classes, there was more group work and active learning. I think I improved my communication skills using English because the ratio of individual work was small. Classes ended at 2:00 p.m., so I went to various places with my friends. Especially, I often went to the beach because the Gold Coast is an oceanfront area. (c) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか？

あなたの外国語能力は向上しましたか？もしそうなら、どのような点においてですか？(What is the most important thing you learned during the time of your study abroad in terms of foreign language communication? Have your foreign language proficiencies improved, and, if so, in what ways?) Anyway, I thought it was important to speak English on my own. I sometimes hesitated to speak English because I was concerned about grammar, but by honestly expressing my feelings, I was able to make the other party feel more open and comfortable with me. (d) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか？行く前に準備しておけばよかったことがありましたか？(Would you tell us about the challenges you met in your cross-cultural experiences? Please refer to what troubled you, or was difficult for you, if any, while you were there. Was there anything you wished you had better prepared for before going?)

The public transportation system was confusing with different ways to get on and off the bus. Buses did not provide information on the next bus stop, so I had to check my current location and ring the bell by myself. In addition, I often did not know which bus was going where, so I had to ask the driver to get on the bus. (e)

日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。(Did you find any “international” difference(s) between Japan and the host country, such as differences in terms of cultures and customs, university classes, people’s attitudes and behaviors, social organizations, and so on?) The public transportation system was confusing with different ways to get on and off the bus. Buses did not provide information on the next bus stop, so I had to check my current location and ring the bell by myself. In addition, I often did not know which bus was going where, so I had to ask the driver to get on the bus. (f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。(Did you find any diversity that exists within the host institution, its surrounding communities, or the larger society? If so, please describe it.) As was the case with my homestay family, many of the families were a mix of different nationalities. My family is of Samoan and New Zealand descent, and we enjoyed Samoan food. (g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか？(In what ways are you planning to use what you gained from the study abroad experiences in the future?) When I see a foreigner who is visiting Japan as a tourist and seems to be in trouble, I am

now willing to talk to him or her. I will continue to communicate with them in English on my own initiative.

(H) 次の参加者へのアドバイスはありますか? (What advice would you give to those who are planning to join the same program/study at the same school next year?)

When I see a foreigner who is visiting Japan as a tourist and seems to be in trouble, I am now willing to talk to him or her. I will continue to communicate with them in English on my own initiative.

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

(a)オーストラリアのメルボルンにある DEAKIN 大学に語学留学という形で行った。ホームステイに泊まり、オーストラリア出身のファミリーに引き取ってもらえた。(オーストラリアでは移民の家族が多く、オーストラリア出身の人は珍しかった。)

(b)大学附属の語学学校には、その大学へ進学するために英語を学んでいる人が多く、様々な国から学生が来ていたが、その年齢層はバラバラで 20 代から 40 代まで多様なバックグラウンドを持つ学生と交流することができた。特に、同じクラスにいた 44 歳のコロンビアからきたクラスメイトが大変印象深かった。すごく陽気でいつも明るく笑っている人で、拙い英語しか喋れていなくても、積極的に話しかけてくれたり、わからないことを先生に聞いている姿が印象的だった。コミュニケーションというのは言語の能力だけではなく、いかに相手に伝えようとする気持ちが重要かを学ぶことができたと思う。

また授業外では、ディナーをいつもホストマザーと 2 人で食べたのが印象的だった。私にはまだネイティブと楽しく会話できるほどの英語力がなく、会話がつまったり言いたいことが伝わらなかつたりという場面もあった。しかしその度にマザーは私の英語を理解しようとしてくれたので、沢山のことを話すことができ、私の自信にも繋がった。しかし毎日話すとすると会話のお題を探すのにも困ったので必死で様々な出来事、ニュースを探していた。大谷翔平選手が結婚した時は、「日本の超人気の野球選手が結婚したよ!」と話して、それぞれの国の人気のスポーツについて話すことができたのも今思うといい思い出。

(c)違う国の人と話す時には英語力はもちろんだが、それ以上にコミュニケーションを取ろうとする姿勢、伝えようとする姿勢がすごく重要だということがわかった。そしてそうやって英語を使っていくうちに自分の英語が伸びていくと感じた。

また、オーストラリア人は特に英語を話すスピードが速く、聞き取るのが難しかったが、この研修が終わる時にはすごくリスニングスキルが上がったのを感じた。

(d)オーストラリアでは、さまざまな移民が共に暮らしているからか、特に疎外感を感じたり大きな文化の違いを感じることはなかったように思う。特に中国系のアジア人が多く住んでいるので、アジア系のレストランやスーパーも頻繁に見かけた。しかし、日本と大きく異なっていると感じた点は電車やバスなどの公共交通機関が時刻通りに来ないことが多かったことだ。時間通りに来ないことが頻繁にあるにも関わらず、駅のアナウンスやアプリで確認できる機能はないため、学校に遅れたり待ち合わせ通りにつけないことが多かった。しかしそれも日本とは異なる、時間に縛られない自由な考え方を持っているのだと思う。

(e)オーストラリアは日本と異なり様々な人種の人が暮らす国だと思った。シティには本当に多種多様な国のフードやお店が並んでいたのが印象的だった。また移民が多いためか、メルボルンの人々は本当に寛容で陽気な人が多いと感じた。また、国土が尋常ではないほど大きいので、家も道幅もショッピングモールなども大きく、日本のストレスフルな狭い空間で過ごしていた私にとってはずごく興奮させられた。

(f)オーストラリアはやはり様々な人種が暮らしているので、比較的多様性についての理解が進んでいると感じた。

(g)今回は 1 ヶ月という短い期間だったので、この経験を活かし、今後長期の留学に行きたいとかがえている。また、留学という形だけではなく日本でももっと国際交流ができるように様々なイベントに参加したい。

(h)私は今まで海外留学に行ったことがなかったので、行く決断をする際にはすごく緊張したが、いざその地に行くと様々な挑戦、発見があり行く前の緊張を忘れてしまうぐらい充実した日々を送ることができた。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

私は短期でオーストラリアのグリフィス語学学校へ1ヶ月間行きました。ホストファミリーは父親がオーストラリア人で、母親はフィリピン人でした。自分の他に一人ルームメイトがおり、自分含めて四人で過ごしました。この留学で一番楽しかったことは、授業終わりへ海に行き、泳いだりリラックスしている時間が一番好きな時間でした。日本では学校が終わった後に海に行くことはないのととても新鮮なことでした。オーストラリアの海はとても綺麗でした。誰かとコミュニケーションをとる中で一番重要だと思ったことは、諦めずに伝え続けるということです。伝わらないことがあると諦めなくなる時もあるが、そこでもう一度チャレンジすることが大事だと感じました。留学中困ったことは、バスが時間通りこなかったことです。調べた時間でも来ず、現地の人に聞いてもわからないと言われて、日本では怒らないような交通系の問題が起こってしまったことが大変でした。授業を受けて感じた違いは意見を求められることです。日本では意見を求められても言わずに逃げるのが可能なことが多いが、オーストラリアは自分の意見を言うまで逃したもらえず必ず意見を求められたことに大きな違いを感じました。今回の海外経験を通して、自分が当たり前だと思っていることは違う文化や国、人によって違うということを考えながら生活していきたいと思いました。



研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

- A. Griffith 大学、7人家族のおうちにホームステイ      B. クラスのみんなでした BBQ      C.発音が良くなった  
D.気を遣って自分の意見が言えないときがあった      E.電車の中とかにいても、I like your outfit って褒めたりして  
るのがいいなと思った      F. いろんな人種の人がたくさんいた気がした      G.自分の英語を自信を持って喋る  
H. たくさん現地の人たちと喋ること

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

オーストラリア東海岸にあるグリフィス大学の語学学校に留学しました。ホームステイ先は学校からバスとトラムを乗り継いで50分ほどのところで、留学生専用のベッドルーム・シャワールーム・トイレなどを使うことができました。放課後や週末には、ホームステイ先が同じだったルームメイトや、学校で知り合った友達、学習院大学から同じプログラムに参加している友達などと、いろいろなところへ遊びに行きました。日本の冬季に留学したためオーストラリアは夏季で、海やテーマパーク、アウトレットなどを楽しむことができました。学校の授業では、クラスメイトとさまざまな議題でディスカッションをする機会が多く、英語で会話することに慣れ、精神的なハードルがかなり下がったと思います。日本以外から来た学生とも交流することができて有意義でした。短期の留学でも、ネイティブスピーカーが頻りに使う表現を覚えることができたり、英語を話すことに対する抵抗をなくすことができたりと、英語学習という面から見ても成長する機会はじゅうぶんにあると思います。オーストラリアは日本に比べて公共交通機関が発達しておらず、バスやトラムの本数が少ないだけでなく遅延や連休が想像以上に多いことにはカルチャーショックを受けました。勝手のわからない中で試行錯誤しながらひとりで買い物に行き、無事に帰ってこられたときはとても達成感を感じましたし、いい経験になりました。ひとりで行動したい場合は特にそうですが、海外でインターネットが通じないのは死活問題なので、事前にきちんと調べて安定したインターネット環境を整えておくことが大切だと思います。ホームステイ先ではルームメイトと一緒に日本料理を作って振る舞ったこともありましたが、ホストファミリーの口には合わなかったようでほとんど食べずに残されてしまいました。私たちは多少口に合わない料理を出されてもすこし無理をして食べていたので、そのはっきりした態度に驚いたことが印象に残っています。滞在期間中には留学先の大学に新生が入学してきて、大学全体が学園祭のように盛り上がり、さまざまな出し物があった期間もありました。私が通っていた語学学校には直接の関係はないのですが、先生の発案で授業中にクラスのみinnでキャンパスを探検して楽しんだ日もあり、日本よりも時間割に厳格ではなく自由な風土だと感じました。オーストラリアは、留学前に想像していたよりも移民が多い多民族国家で、さまざまなバックグラウンドや文化を持った人々が、互いを受容しながら生活している国です。日本ほど他の人種に対する違和感を持たない人が多く、良くも悪くも興味をもって受け入れてくれました。単なる英語学習としてだけではなく、異国での文化や生活を体験して楽しみたい人にとっても、グリフィス大学はとても良い選択肢です。カリキュラムとして設定されているのは平日の語学学校での学習だけなので、放課後や週末など、行きたい場所ややりたいことを事前に調べてリストアップしておくのがおすすめです。自由な時間も多いため、積極的にいろいろな場所に赴いたり、たくさんの人と話をしたりすることで、自分なりの有意義な留学体験を手にすることができると思います。

研修期間	短期
プログラム（日程）	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム（2024年2月5日～3月1日）

(a) オーストラリアのゴールドコーストに行きました。ホームステイ先はピンパーマという場所で、どちらかというところという印象を受け、自然が多かった。学校まではバスとトラムと電車を使って1時間半程度でした。 (b) 授業や日常生活の毎日が楽しかったので一番は決められないけど、クラス全員でご飯食べに行ったり、向こうでできた友達とブリスベンに行ったり、動物園やショッピングや海に行くなどすべてのアクティビティが楽しかったです。

(c) 伝えたい思いがあれば向こうは聞いてくれるということを学びました。会話していくうちにわからない単語や言い回しが出てきて言葉に詰まったときは、向こうの人たちが調べていいよって言ってくれたりして、とにかく伝えようとする姿勢が大切だとわかった。外国語能力は話すことについての能力は培われたと思います。授業でとにかく英語で喋るというスタンスだったのでいやでも自分が伝えたいことを言語化する機会が増えて上達したと感じた。 (d) 少しだけ英語に訛りがあったようで、自分なりに伝わるイントネーションで話しているつもりが伝わっていない場面がいくつかあった。

(e) オーストラリアの人たちは朝6時くらいから働き始めて15時には仕事を終えるスタイルということに驚いた。ホストファミリーが共働きの家庭だったけど、朝5時には家を出て14時には家にいる印象があった。早寝早起きでとても健康的だなと感じたし、自分の体内時計も現地で変わった。また、雨のことをシャワーと呼ぶ文化があるらしく、会話で齟齬が生まれる場面が何度かあった。現地の人みんな陽気で休みを家で過ごさず外で過ごす風潮があった。

(f) 多民族国家というだけあって、肌の色や言語が違う多国籍な人々が共生しているなと感じた。 (g) 今回の海外研修を通して海外にもっと行ってみたいという感情が芽生えたので、アジア圏など金銭的に生きやすい国をいくつか訪れてみて、オーストラリアとはまた違った新しい価値観を得たいと思った。

(H) 自分は海外研修に行くまではとても不安だったし、行きたくないなと感じる場面も多かったけど、行ってみたら素晴らしい環境や友達に恵まれて、本当に素敵な経験をすることができました。思っていたより海外で生きていくというのはハードルが高いことではないので、気負うことなく学んできてほしいなと思いました。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

私は短期 (1ヶ月間) の研修先として Griffith English Language Institute (GELI) というグリフィス大学の英語学校を選択しました。選んだ決め手は、ゴールドコーストという自然豊かな街に行ってみたかったことと、オーストラリアの多文化を実際に体感してみたかったからです。研修期間で最も楽しかったことは、大学のアクティビティの一環でバイロンベイというスポットに行ったことです。大学に通う多くの学生とバスで向かい、綺麗なオーシャンビューを見たり、街中を観光したりして、遠足に来た感じでとても楽しく印象に残っています。授業で、さまざまな国の学生と自国の文化を紹介し、日本の良さを知れたことや他国の文化に興味を持てたことも非常に印象に残っています。この期間で外国語コミュニケーションの観点で学んだことは、間違っているとしても積極的に英語を使って話すことの重要性です。たくさん使っていくうちに、これは通じる・これは通じないといった気づき生まれ、自然に英語が直され (直してもらったこともあったが) 徐々に自信を持ってコミュニケーションが取れるようになりました。話し始めはもちろん勇気が必要ですが、回数をこなしていくうちに慣れていくと思うので、とにかくたくさん英語で話すことが重要だと思います。上記の行動をしたおかげで、自分自身の英語力というと、スピーキング能力が上がったと思います。以前よりも積極的に話すようになった気がします。留学先での難しかったことは、交通機関を使いこなすことが一番難しかったです。スマートフォンがあるため検索は出来ますが、時間通りに来なかったり、直前にキャンセルされたりしたため、運転手や街の人に直接確認する必要性がありました。コミュニケーションをとる一つの練習にもなったので、今思えばいい経験でした。オーストラリアと日本の違いについては、一番は自然の規模の大きさの違いです。土地が広く、あたりいっばいの芝生や広い空、公園や家の周りには多様な動物がいるなど、日本では経験できない壮大な感覚になりました。また、人々もとても温かく、道端やお店ですれ違った見知らぬ人であっても、笑顔で挨拶をしてくれました。この文化は日本では見られないものだと感じました。一方で、交通機関内でのマナーは日本の方がよく、あまり細かいことは気にしないといった国際的な感覚を経験しました。違いの観点でいうと、都会と田舎でも街や人々の雰囲気や異なると感じました。田舎の地域の方がおおらかな雰囲気があり、人々は多様性を大いに受け入れていると思いました。この海外研修を通して、日本の良さを再確認できたのと同時に、異文化の人々と交流する楽しさを体験することが出来ました。また、英語は他国の人々とコミュニケーションをとるために欠かせないものだと強く再認識しました。そして今後は、さらに英語力を高めて、より深いコミュニケーションをとれるようにしていき、卒業後の進路でもそれを活かせるように考えています。日本と海外をつなげる、そのような仕事に興味を持ちました。これから留学する方々へ 何もしないで留学へ行くのではなく、少しでも英語力を上げてから行く方が現地での満足度が違うと思います。留学へ行ったから英語力が伸びるのではなく、勉強した成果を留学先で試して、そこから学びを得て英語力が伸びるのだと思いました。とは言っても、短期の場合は時間がたつのがあつという間のため、どのような生活を送りたいのか、留学先での目標・目的を事前に考えておくと、現地で充実した生活が送れると思います。是非楽しんでほしいです。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

- (a) どこへ行きましたか？研修先および宿泊先について少し教えてください。(Where did you go? Would you tell us about your study abroad program and host institution as well as housing?) オーストラリアのグリフィス大学・ホームステイ
- (b) 日常生活またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか？(What did you enjoy most in your daily life and/or in your experiences in classes and after-class activities on campus?) 授業後にいろんな国の友達とテーマパークや海に行ったり、学校が主催するバーベキューなどのイベントに参加したこと。
- (c) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか？あなたの外国語能力は向上しましたか？もしそうなら、どのような点においてですか？(What is the most important thing you learned during the time of your study abroad in terms of foreign language communication? Have your foreign language proficiencies improved, and, if so, in what ways?) 相手が何を伝えようとしているのかくみ取るために、リスニングやボキャブラリーの能力は大切で、毎日聞いていると聞き取りやすくなっていった。また、文法などの細かいルールよりも、単語をたくさん知っているかが大事だと思った。相手はこちらの伝えたいことをくみ取ろうとしてくれるので、積極性やトークの楽しみ方が重要であると思うようになった。
- (d) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか？行く前に準備しておけばよかったことがありましたか？(Would you tell us about the challenges you met in your cross-cultural experiences? Please refer to what troubled you, or was difficult for you, if any, while you were there. Was there anything you wished you had better prepared for before going?) ボキャブラリーは多ければ多いほどいいと思いました。
- (e) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。(Did you find any "international" difference(s) between Japan and the host country, such as differences in terms of cultures and customs, university classes, people's attitudes and behaviors, social organizations, and so on?) ホスト国は真夏で気温も湿度も高いのですが、海やプールに入ったとき以外お風呂には入らないこと。
- (f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。(Did you find any diversity that exists within the host institution, its surrounding communities, or the larger society? If so, please describe it.) 思っていたよりアジア人差別などはなくて、日本人も多く住む街だった。
- (g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか？(In what ways are you planning to use what you gained from the study abroad experiences in the future?) 海外に行くのが楽しいと感じるようになったので、旅行の機会があれば積極的に現地の人と話したい。検定試験などの勉強に役立てたい。
- (H) 次の参加者へのアドバイスはありますか？(What advice would you give to those who are planning to join the same program/study at the same school next year?) ニコニコしてれば何とかなると思うので、身の上の安全にはきをつけて頑張ってほしいです！

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

私は、オーストラリアのメルボルンにあるグリフィス大学で約1ヶ月間の海外研修をしました。クラスは、国籍や年齢を問わず色々なバックグラウンドを持つ生徒で構成されていて、皆が英語を学ぶために集まっているので、向上心とともに積極的にクラスに参加することが出来ました。また、授業後や休日は友達と観光名所やショッピングへ行き、コアラを抱っこしたり綺麗な海で泳いだりなど、オーストラリアならではの体験をたくさんしました。また、授業の一環で遠足があり、クラスのみんなで自然公園に行きました。先生がたくさんのミッションを私たちに課し、生徒たちは互いにコミュニケーションを取りながらミッションクリアに向けて協力するゲームが1番印象に残っています。また、ホームステイ先の家でもホストファミリーとたくさんコミュニケーションを取ることで英語力向上を心がけていました。夕飯は必ずホストファミリーと食べるようにし、その中で今日あった出来事や楽しかったこと、分からなかったことなどをたくさん話し、積極的に会話をするようにしました。そうすることで、話すことへの恐怖心がなくなり、自分に自信がもてるようになりました。しかし、会話をしていく中で大変だったのが、自分の伝えたいことが正確に伝わらないことです。プールに遊びに行った時にロッカーが空かなくなってしまい、スタッフの人に助けを求めた時に、伝えたいことが上手く伝わらず、理解してもらうまでに少々時間がかかってしまいました。なんとか単語を紡いで最終的には解決できましたが、やはり事前に単語だけでもたくさん頭に詰めておくことはかなり重要だと考えます。他にも、オーストラリアで過ごしていて気づいたのは、日本と生活リズムが全く違うということです。オーストラリアの人は朝の時間を大事にしており、そのために早寝早起きを徹底しています。そのため夕飯を食べる時間がとても早かったり、最終のバスや電車が日本の何時間も早かったです。また、レストランやカフェに行った時の注文方法も全く違い、オーストラリアでは大体のお店のテーブルにQRコードが着いており、それを読み取ることで注文、決済が行われます。キャッシュレス文化ならではの、とても画期的だと感じました。これらの経験を通して、私はもっと他の国にも目を向けて、多様性とは何かしっかりと考えていきたいと考えます。そして様々な国を比較し、多様性のあるべき姿を見つけ出したいです。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

(a) I went to Australia, English Institute of Griffith University about 4 weeks. I did homestay. My host family was consisted of father, mother and daughter. They were so kind and gave me many food to eat. The food that host mother made was so delicious. Thus, lunch time was one of my pleasure time. As for my class, it was so enjoyable to communicate with my class mate. Fortunately, I was in the member of the most highest level class. Thanks to it, nationality of my classmates is diverse. Then, I could touch many culture differences.

(b) The most blight memory of my stay was BBQ with students of GELI. Actually, I joined it after eating ice cream with my friend, but it has already finished. I was so sad, then I decided to jump into the sea. It was probably unbelievable for people to jump into the sea with wearing clothes.

(c) Through this studying abroad in term of communication, I found that "Be confident myself" is the most important thing to communicate with others. In class, there are many people who spoke up no matter they didn't know actual answer. That attitude is very brave and important to live as an English learner. Without speaking up, many people can not notice own mistake of pronunciation and grammar. From that point, speaking up confidently in front of classmates is the most important thing to communicate with other and make own English better.

(d) One of my challenge is waking up early and do morning activity. I always went to school an hour and half before class. Then I studied and sometimes trained at the uni gym. It was so quality time to spend. I thought that I want to keep this custom as possible as I can.

(e) The most big difference between Japan and Australia is whether diversity or not.

(f) As already mentioned, Australia is a country that recognizes more diversity than Japan. I felt that it didn't matter how you dressed or what opinions you had.

(g) I want to be able to always maintain a thought process that makes me think that I am myself. Having experienced the beauty of diversity in Australia, I felt free no matter what clothes I wore or what opinions I had. I would like to continue this way of thinking in Japan.

(h) If you want to go to this program in this country to improve your English, you should quit. There are so many Japanese people that it feels stupid to pay for it.

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

(a) グリフィスに短期留学をしました。渡航前にクラス分けテストを行い DEP6 のクラスに参加して授業を受けていました。宿泊先はホームステイでヘレンスヴェイルという最寄りから徒歩 25 分のところのおうちに 1 ヶ月間滞在しました。

(b) クラスメートは様々な国籍からきていたためディスカッションをする時とても有意義な k 時間となりました。バックグラウンドを持っている生徒と関わることによって価値観の違いや考え方に大きな差を感じる時もあったのでそのような点においてもとても興味深かったです。フランス、タイ、中国、ベトナム、モンゴルなどから年齢関係なく発言することができました。

(c) 対話をする時に言葉が出ない時もありましたが、単語力や語彙力はあまり気にせず自分から積極的に人に話しかけることが留学を通してすごく大切だと強く感じました。最初の 1 週間が過ぎた頃から自然と考えずに話すように慣れたと自分でも実感することができました。初めて知った単語はメモを取ることをしました。そうすることで自分の語彙力を向上させることもできます。

(d) 最初は一人で公共交通手段を使ってどこかにいくのはかなり不安でしたが、わからないことは人に聞くことにチャレンジしました。異国の国ということもあってシステムが少し違うところもあったのですがそれも一種の経験と思い、わからないことはできるだけ自分で解決する努力をするとともに人に聞くことが留学前よりもできるようになりました。

(e) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。日々の生活習慣に大きな差を感じました。オーストラリアの人たちは朝早く朝活をしている人をたくさん見かけました。お店も 4、5 時には閉まっているため仕事が終わったら家族との時間を大切にしているためそこもすごく素敵だと感じました。

(f) 私のホストファミリーはインドから 14 年前に移住してきた家庭だったのですが、滞在するホストファミリーによって出してくださる料理が異なるのでその点でもすごく楽しみながら過ごすことができました。食べたことがないものにチャレンジしたり新しい考え方も生まれました。ホストファミリーの小さい子供とたくさんコミュニケーションをしたことで大好きになりとても素敵な関係を築くことができました。

(g) 短期留学でも主体的に自ら話しかけることを意識したことによってスピーキング力が飛躍的に伸びました。また英語力向上だけでなく自己成長ができた場でもありました。当たり前のことですがスケジュールを組んだり朝に洗濯機を回してから学校に行っていたのですが日本の暮らしとはまた違っていたので自ら気づき行動に移すことがさらにできるようになった気がします。他者との関わり合いを通して改めて異文化理解の大切さや文化の違いを尊重するとともに英語を用いて人と関わるのが好きだということに気づきました。

(H) 私は短期留学だったので期間も短く限られていたため、この期間でいかに成長できるか自分で目標を立ててからいきました。なので明確に目標を立てることによって現地での成長度合いが変わってくると思うので実現したいことなどをリストアップするとともに、とにかく楽しんで留学先で様々なことに触れ経験を積むことが大きな経験になると感じました。



研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

I went to Australia's Gold Coast to study abroad for a month. The host family lives in Robina with a single mother, her 15-year-old daughter, and their pet dog and cat. It was easy to commute to school because it was a five-minute walk from my house to the station. My host family actively served Australian local cuisine for dinner, so I was able to enjoy dishes unique to Australia. The most enjoyable thing about my daily life and campus was being able to use Australia's training gym. It was a little difficult for me to speak English, but I was able to communicate easily through my hobby of training. I also felt that the whole gym was full of energy due to the cheerful nature of the Australian people. Regarding foreign language communication, what I learned while studying abroad is that perfect grammar is not absolutely necessary for certain types of communication. Of course, it's better if your grammar is perfect, but if you're communicating at the level of everyday conversation, even if your grammar is slightly incorrect, as long as you're willing to communicate, the other person will understand what you want to say. I was surprised at the problems with transportation in Australia and the high prices. When trains are suspended in Japan, they do extensive publicity work to let people know in advance, but in Australia, trains were suddenly suspended. I went to my destination by bus, so I didn't have any problems, but I was surprised at how different it was from Japan. In addition, prices have taken a considerable hit. For breakfast, I only have fruit granola to save money, and I don't have enough eggs or bacon. The most important international difference between Japan and Australia was the difference in the degree of openness of humanity. Compared to Japanese people, Australians were more open about their personalities and characteristics. Australians told many people about themselves, things that many Japanese people don't talk about, such as their likes, hairstyles, hobbies, opinions, and religion. I wanted to use this experience of studying abroad to improve my own individuality and how to deal with it. I want to be able to say without shame that I like what I like and dislike what I don't like.

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日~3月1日)

私はオーストラリアのゴールドコーストに留学した。ピンパーマという都市で一か月間ホームステイを行うというプランであった。また、ホームステイ先から一時間ほど離れたグリフィス大学に通った。日常生活を通して一番楽しかった時間は、ホストファミリーと過ごした時間である。私が暮らした家庭は、父親・母親・娘の三人家族であった。留学前は、英語でコミュニケーションを取ることができるか、迷惑をかけたりしないかなど、不安なことが多くあったが、実際には何不自由なく、非常に充実した時間を送ることができた。私が海外研修期間において学んだ最も重要なことは、コミュニケーション時における積極性である。今回の留学を通して私の英語力で最も向上した点は、話す力であると思う。海外留学が初めての経験であった私にとって、英語を話す力が最も心配な要素であった。しかし恐れずにホストファミリーや現地の人々と会話することで、英語が話せるようになるだけでなく、自分は英語を話すことができるのだという自信に繋がった。留学中における困ったこととしては、日本とオーストラリアにおける生活スタイルの違いについてである。現代日本人の基本的な生活スタイルとして、睡眠時間が極端に短いという点が挙げられる。一方オーストラリア人の生活スタイルの特徴として、早寝早起きであり、睡眠時間が長いという点が挙げられる。そのためオーストラリアに留学した直後は、オーストラリアの生活スタイルに合わせる事が非常に難しかった。上記が原因となって、オーストラリアは公共交通機関の終了時間が日本に比べて非常に速いため、帰宅の際は注意する必要がある。オーストラリアに留学して驚いたことは、日本人の多さについてである。春休みの時期で多くの日本人留学生がいるということも考えられるが、就労ビザを取得して現地で働いている人々も多く見受けられた。その点は、オーストラリアに留学する日本人留学生にとって安心できる要素であると思う。私は、今回の海外研修で得た体験をこれから迎える社会人としての生活に活かしていきたいと思う。今回初めて日本から飛び出し、新しい環境に一人で身を置いた中でとても密度の濃い時間を送ることができた。そのため大学を卒業し、社会人になった後も様々な分野に対して果敢に挑戦していきたい。次の参加者へのアドバイスとしては、海外留学に行った際はオーストラリアに限らず、自信を持って積極的に話してほしいということである。現地の人々は、親切な人ばかりであり、相談をした際には何事も丁寧に教えてくれる。そのため何事も自分らしく、留学でしかない貴重な経験をたくさん体験してほしいと感じる。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・グリフィス大学語学プログラム (2024年2月5日～3月1日)

(a) オーストラリアのゴールドコーストにあるグリフィス大学に行った。ゴールドコーストにあるアッシュモアのホストファミリーにお世話になった。

(b) 授業でクラスごとに遠足がありバーリーヘッズやカルチャーセンターへ行きアボリジニの歴史を学んだりハイキングをした。オーストラリアの人々がもつ先住民であるアボリジニの人々に対するリスペクトの気持ちやどのような歴史が形成されてきたのかを知ることができた。

(c) 積極的に話しクラスメートと議論し意見を交わすことの重要性を特に感じた。ディスカッションが中心の授業が多く、まずは自分の考えを固めてから恐れず話してみることで新たな視点からの意見を聞き議題における理解を深められる。授業内ではライティングを基礎から細かく指導されたためライティングの能力が向上したと感じる。

(d) ディスカッションやライティングをする上で研修先の国についてもっと知っておく必要があると感じた。例えばライティングや議論のトピックにおいて日本では馴染みのないものであったりその国について説明するものがあるため事前にある程度その国についての知識を持っておくことより良いと思う。

(e) 習慣としてオーストラリアでは早く寝る人が多いと感じた。日本に比べ施設やスーパーなども早く閉まり夕方には家族で夕食を食べゆっくり過ごすことを大切にしていると思った。

(f) 通っていた学校にはアジア人、白人、黒人など様々な人種やバックグラウンドを持つ生徒がいた。

(g) まずは研修中は英語に触れる時間が長かったため英語の向上において勉強として扱うだけでなく日常生活で英語を身近なものにすることが大切だと感じる。留学先では意見交換が多く他者の意見を受け入れ尊重し、また自分の意見をはっきりと言う機会が多くあった。大学生活だけでなく社会に出た際にも他者とのコミュニケーションは必要不可欠でありスムーズに仕事をする上で欠かせないものであるため体験を活かしたいと考える。

(h) 研修先の国や地域で使われるスラングや言い回し、文化などを勉強してから行くと現地での会話のきっかけとなったり交流の輪を広げることに関与すると思うため事前に調べ知識として持つておくことは大切だと思う。また失敗をしても挫折せずどんどんチャレンジすることが英語力の向上、ひいては異文化理解を促すと感じる。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日~3月8日)

(a) どこへ行きましたか？研修先および宿泊先について少し教えてください。 私は、オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学附属語学学校 語学プログラムへ春季休業の間に参加してきました。宿泊形式はホームステイで、学校から1時間ほど電車で離れたおうちに滞在しました。実際の研修の主な過ごし方としては、平日は、8時20分から授業が始まり、12時50分に授業が終わります。その後は、自由に過ごすことができたので、友達とお昼ご飯へ行って、カフェに行ったり、授業の中で出た課題を図書館で進めたりと、毎日違った素敵な日々を過ごしていました。

(b) 日常生活またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか？ 休日は自分の好きなように時間を使うことができたので、メルボルンの中心市街で買い物をしたり、ご飯を食べたりする日もあれば、友達同士でツアーを申し込んで、メルボルンの有名な観光地へ小旅行をしたりととても充実していました。その中でも、少し離れたフィリップ島という場所へ行ったことが心に残っています。自分達だけではいくことができないので、友達とツアーに申し込んでいきました。やはり、慣れない土地なので、安心できるツアーなのか、本当に申し込みが正しくできているのかなど沢山不安なことがありましたが、実際に素敵な体験をすることができてとても良かったです。とても綺麗な海や珍しいペンギンを見ることができました。

(c) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか？ あなたの外国語能力は向上しましたか？もしそうなら、どのような点においてですか？ どんなに自信がなくても、怖がらずに話しかけるということです。自信がなく、はっきりと話すことができず、伝わらないことが最初は多くありましたが、思い切ってはっきりと話すと思いのほか文法がきちんとしていなくても伝わるが多かったです。実際の英語力が上達したかどうかは短期だったのもあり、はっきりとはわかりませんが、開国人へ話しかけるのに怖さを感じなくなり、度胸がついたと思います。

(d) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか？行く前に準備しておけばよかったことがありましたか？短期のプログラムは日本人がとても多かったのですが、中長期の生徒と混ざって受けることができたので、クラスの中でもしっかり生きた英語を使うことができました。また、みんな英語を喋れるようになりたいという高いモチベーションを持っている人が多かったため、自分にもとても良い刺激になりました。日本人同士だとどうしても母国語である日本語を話したくなる気持ちも最初はありましたが、周りもみんな一生懸命伝えようと頑張っているのを見て、自分も頑張ってみようという気持ちにさせてくれたので、とても素敵な環境でした。クラスには、日本、タイ、中国、サウジアラビア、コロンビアなど本当に多国籍の人々で構成されていたので、今まで生きてきた中で出会うことのできなかつた国籍の人と繋がりを持つことができてとても貴重な体験になりました。日本へ良い印象を持ってきている人々が多くいて、日本人というだけで関わってくれたり、知っている日本語を教えてくれたりととても親日な都市であると感じました。また、ホストファミリーとの関わり方にかなり苦戦しました。とても優しくご飯もとても美味しく素敵な家庭に混ぜていただくことができましたが、やはり自分の英語力も足りない部分も多く、話したい！伝えたい！ということがあっても、語学力が足りず上手く、ファミリーに伝えることができず、もどかしく感じることも多くありました。また、ホストファミリーの同士で話していることを理解できないことも多く、会話に入れず孤独を感じてしまうことも多かったです。しかし、そのような時は、怖がらず実際に勇気を持って内容を聞いてみると、とても優しく教えてくださり、本当の家族になったように感じることができ、本当に感謝しています。

(e) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。日本とオーストラリアの違いとして感じた部分は、かなり時間にルーズな人々が多いという点です。8時20分に授業が始

まることはなく、先生も生徒が集まるのを待って授業を始めるという形だったのでとても驚きました。日本では、授業開始時には全員出席しているのが当たり前というイメージだったのですが、実際8時20分に出席しているのは、同じプログラムに参加している日本人のみでした。また、メルボルンは、留学生にとっても優しい街であると感じました。そのように思った出来事としては、Ziggy という取り組みが学校の中で行われていると知った時です。Ziggy というのは、セラピードックのことを指します。週に一度が学校に来てくれて、留学など不安とストレスが溜まりやすい環境に身を置いている生徒の心身を癒してくれるという取り組みです。今まで日本などでもそのような取り組みを聞いたことがなかったため、オーストラリアという留学生の集まる国だからこそある取り組みなのだと感じました。 (f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。 1ヶ月過ごしてみて、メルボルンは、とても多国籍な国であると思いました。留学生が多いということもありますが、本当にさまざまな国の人々が集まっていました。ちょうど中国の春節の期間に滞在していたため、その期間は街を上げて中国の春節をお祝いし、伝統的な出し物や食で盛り上げられていてとても素敵でした。また、多国籍文化ということで、宗教に対してとても寛容で、それぞれの考え方や文化をお互いに学ぼうという姿勢をととても感じました。多国籍だからお互い主張し合うということだけでなく、お互いに学んでその文化を尊重し合おうという姿勢をととても感じる事ができて、とても素敵な文化だと思いました。 (g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか? まず、海外で一人で1ヶ月生活できたということに自信を持ち、これから何か挑戦したいと思うことがあったら、怖がらずにどんどん飛び込んでいきたいと思えるようになりました。 (H) 次の参加者へのアドバイスはありますか? 自分自身初めての留学だったので、とても緊張していて、不安も多くありました。しかし、実際RMIT 研修を終えた今、行ってよかったととても思います。また、自分の人生への大きな経験にもなり、貴重な時間を過ごすことができたと考えています。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日～3月8日)

学部募集のプログラムを利用して、オーストラリアのRMIT (ロイヤルメルボルン工科大学) に約1か月留学をしました。宿泊先はホームステイでした。私自身、初の海外渡航でいきなりのホームステイとあり不安に感じていたが、実際に行ってみるとマザーがとてもやさしくて素晴らしい1か月を過ごせたなと感じています！ オーストラリアでの生活で最も印象に残っていることは、日々の授業の中で様々な国籍の人と英語で会話することができたことです。日本だと日本人同士が英語を用いて話すことが多いですが、オーストラリアは多様性の国であり世界のいろいろな場所から来た留学生と会話できて楽しかったです。自分の言いたいことをどうやって英語で相手に説明するかとても苦労しました。しかし、この経験こそが英語力の向上につながったと感じています。 反対にオーストラリアの生活で困ったことは、リスニング力をもっと鍛えてから渡航したかったなと今後悔しています。というのも1か月間ずっと英語を聞きっぱなしのためいやというほど英語のリスニングをします。その時に、わからないことが多いともう一度聞き返さなければいけなかったり、わからないまま会話が進んでいってしまったりします。そのため少しでもスムーズな会話をするためにリスニング力を鍛えたかったなと今感じています。 オーストラリアの雰囲気は「自由」という言葉に尽きると感じました。平日の昼間から公園でピクニックをしていたり、外で自然を楽しんでいる人々が多かったりというような印象を受けたためです。これは日本とオーストラリアの国際的違いだなあと強く感じました。またオーストラリアは多様性の国であるため、外を歩いているだけで様々な国籍の人を見ました。これは飲食店の種類の豊富さからも感じました。 1か月間のオーストラリア留学を経て、この体験を日本での生活に役立てていきたいと考えます。具体的には、英語をもっと使用するために英語を使うようなバイトを試してみたり、積極的にボランティア活動に参加して自分の英語力をもっと向上させていきたいなと思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日~3月8日)

(a) どこへ行きましたか？研修先および宿泊先について少し教えてください。(Where did you go? Would you tell us about your study abroad program and host institution as well as housing?) I went to Australia, actually Melbourne. My study abroad was for a month and I stayed host family's house. My host family was consisted mom, dad, two sisters, a dog, and a cat. All of them was very kind and friendly. I was glad that they told me that my English is very well when I met them first time and started to talk.

(b) 日常生活またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか？(What did you enjoy most in your daily life and/or in your experiences in classes and after-class activities on campus?) The thing I enjoyed the most was going to the beach and then having great dinner with my friends. The beach is called St Kilda beach in the South Melbourne. The view was very beautiful and there were many people to swim in the sea. The sea water was very clear and there was less garbage.

(c) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか？あなたの外国語能力は向上しましたか？もしそうなら、どのような点においてですか？(What is the most important thing you learned during the time of your study abroad in terms of foreign language communication? Have your foreign language proficiencies improved, and, if so, in what ways?) In terms of foreign language communication, I learned that it doesn't matter how to speak English between us. In my class, it was only me who are from Japan and my class was very international because there are many students from different countries. Before I come to Melbourne, I have been nervous about my speaking English, especially my intonation and fluency. However, through this studying abroad, I learned that the ability to communicate with others is the most important thing. English is just a tool to communicate. When we talk with people from different countries, we should care of the culture differences between countries. Moreover, I feel that my foreign language proficiencies was improved. This because I could talk a lot with my new friends in Melbourne. I tried to make opportunities as much as possible to talk and hang out with my new friends.

(d) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか？行く前に準備しておけばよかったことがありましたか？(Would you tell us about the challenges you met in your cross-cultural experiences? Please refer to what troubled you, or was difficult for you, if any, while you were there. Was there anything you wished you had better prepared for before going?) I wish I had better prepared my English vocabularies more. If I got more vocabularies, I didn't have to worry about my English

(e) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。(Did you find any "international" difference(s) between Japan and the host country, such as differences in terms of cultures and customs, university classes, people's attitudes and behaviors, social organizations, and so on?) I strongly feel that my classes were much difference between Japan,Australia and other countries. This is because, in my class, all students were very active, especially Chinese. So the participation in class is much different between countries. That was interesting to me. Also, there isn't much of a culture of queuing up in Melbourne.

(f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。(Did you find any diversity

that exists within the host institution, its surrounding communities, or the larger society? If so, please describe it.) The diversity of Melbourne was very multicultural. There were many people who live from other countries. So, I felt that "everyone is different, and everyone is good" anywhere. Everyone was very friendly kind even I asked the stranger to get there.

(g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか? (In what ways are you planning to use what you gained from the study abroad experiences in the future?) I'm planning to work with English, moreover, I think that I would like to go to outside graduated school. I understand the different cultures between countries, So I plan that I will study and work in English.

(H) 次の参加者へのアドバイスはありますか? (What advice would you give to those who are planning to join the same program/study at the same school next year?) Please study English as much as possible before you go to Australia. And then you can enjoy your staying in foreign country. I can defiantly tell about that because I regret a little bit for studying English more. I wish I could talk with people about more deeper stories and somethings.



研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日～3月8日)

(a) どこへ行きましたか？研修先および宿泊先について少し教えてください。(Where did you go? Would you tell us about your study abroad program and host institution as well as housing?) I went to Melbourne, Australia. I had an host family which consists of father, mother, and 14 years old daughter. Melbourne is famous for its art and unique architecture, so that on most of the wall, there are thousands of street paintings, and unusual looking buildings. And I was interested in that Australia is made by immigrants. (b) 日常生活またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか？(What did you enjoy most in your daily life and/or in your experiences in classes and after-class activities on campus?) My class starts at 8:30 and ends at 12:50, so I really enjoyed going out eating, shopping, and sightseeing. Since Melbourne's transportation is developed and convenient, me and my friends went to many place during the stay. I am friend with a girl from China, I invited her to eat lunch after school. Without border, we exchanged our culture, shared how we see each other's culture, and so on. I also learn Chinese in gakushuin, so it was great time training Chinese.

(b) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか？あなたの外国語能力は向上しましたか？もしそうなら、どのような点においてですか？(What is the most important thing you learned during the time of your study abroad in terms of foreign language communication? Have your foreign language proficiencies improved, and, if so, in what ways?) The belief I would say is, If you want to improve your language, soak yourself in non-Japanese environment, and spend as long time as you can. In my opinion, only a month of studying abroad with other Japanese, don't improve English skills. My host family don't really talk to me, they went to their own room right after we eat dinner. They sleep 10 p.m. and I didn't have time talking to native speakers. And also in the class, many students are not really able to speak English. During the break and after school, every student meet up somebody who speaks their own language. So there's a small possibility of improving English skills.

(c) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか？行く前に準備しておけばよかったことがありましたか？(Would you tell us about the challenges you met in your cross-cultural experiences? Please refer to what troubled you, or was difficult for you, if any, while you were there. Was there anything you wished you had better prepared for before going?) I didn't really have challenges for this stay. But the homeroom teacher was having misunderstanding or haven't received information about our program, so we missed some activity that we had to do. I could have searched up some more information about Melbourne. I didn't know the price of everything are seriously expensive. I could have brought some things from Japan so that I didn't need to buy there.

(d) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。(Did you find any "international" difference(s) between Japan and the host country, such as differences in terms of cultures and customs, university classes, people's attitudes and behaviors, social organizations, and so on?) When I was close to going back, I wanted to find something only in Melbourne, but I couldn't find any. This is because Melbourne is containing many immigrants since decades before when English colonized Australia. There are much Italian food, Asian

food, and English food. Australia is well known for its dialect. For example, "Aussie" speak "arvo" instead of saying afternoon. And avocado is "avo". This is pretty confusing when first learning Australian slangs. The teacher told us that Australian people are lazy speaking. At school, I found gender-less bathroom. The sign of bathroom is normally blue man and red female. However, that bathroom has five different people. Two of them are ordinal male and female, one is combined with both male and female, and last two have crutches. I was so surprised when I saw this in the university. (f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。(Did you find any diversity that exists within the host institution, its surrounding communities, or the larger society? If so, please describe it.) (g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか?(In what ways are you planning to use what you gained from the study abroad experiences in the future?) During the stay, the host father lost his contract and lost his job. He doesn't care at all, and even motivated to find a new job. He was ambitious about working at specific company. This made me thought it is totally fine starting new things no matter how old I am. And also I met some people who are parents, graduated from college and want to get master. It is great thing to do whatever I want to do when I want to do. From this experience, I would not afraid of starting new things, if I want to do. Moreover, if I fail, think and act for next thing, not just thinking what have already happened. (H) 次の参加者へのアドバイスはありますか?(What advice would you give to those who are planning to join the same program/study at the same school next year?) There are many Japanese people there if you go during spring vacation. It's really fun hanging out with same-language people, but the money you spend is not a small amount. I want student make their time as much worthy as possible. It's only a month, but how you prepare for this and how you act in overseas could change your way of thinking.

研修期間	短期
プログラム（日程）	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム（2024年2月9日～3月8日）

a)オーストラリア、メルボルン工科大学      b)語学留学での同じクラスメイトと様々な国の文化について話したり、街を観光したこと      c)最も学んだことはコミュニケーション力です。国も文化も年齢も異なる人たちとビリヤードや食事、イベントを通して、仲良くなることができチャレンジ精神が鍛えられました。      d)異文化経験でチャレンジしたことは食文化です。ラム肉や淡水魚などがオーストラリアでは、レストランのメニューにあり経験のないものには基本的には挑戦する姿勢で過ごしました。またクラスメイトに誘われた大学でのイベントやツアーには積極的に参加し、交流する機会を増やしました。      e)日本とオーストラリアの違いで特に印象的だったことは、意見などをはっきりと言うところです。日本語は一つの言葉に様々な意味合いが込められますが、自分のオーストラリアでの感覚だと意見に対してストレートに伝えているように感じました。      f)オーストラリアに留学して感じた多様性については、州都であるメルボルンには比較的アジア人が多いと感じたことです。時期的にも春休みだったことも原因と考えられますが、あまり留学生が疎外感を感じることは少なく自分のホストマザーも様々な文化料理を振る舞ってくれたので、住みやすい国だと感じました。      g)今回の留学を通して、自分の言ったメルボルン工科大学でのクラスメイトたちは自分の将来就きたい職業や夢が確立している人が多く行動力の高い人たちが多い印象でした。そのためもう一度自分を俯瞰的に見て、自分の経験などから自分に合う職を探したいと感じました。また英語においては自分自身意思疎通の最低限しかコミュニケーションをとれなかったと感じたので、英語に対する知識を増やしてもう一度海外へ行きたいと思いました。      h) 自分の国のことや大学で自分が専攻している分野というものをもう一度見つめ直して、誰かに説明できるようになった方が留学先でも他の国の文化や分野を話し合う上でより興味深い話ができるようになると思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日～3月8日)

(a) どこへ行きましたか？研修先および宿泊先について少し教えてください。(Where did you go? Would you tell us about your study abroad program and host institution as well as housing?) A. I went to Melbourne, Australia. I studied at the RMIT language school level 5. In the class, there were some discussions and presentations.

(b) 日常生活またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか？(What did you enjoy most in your daily life and/or in your experiences in classes and after-class activities on campus?) A. I belonged local track and field club. It has three times practices per week. I was looking forward to that. It creates a lot of chances to communicate with native speakers.

(c) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか？あなたの外国語能力は向上しましたか？もしそうなら、どのような点においてですか？(What is the most important thing you learned during the time of your study abroad in terms of foreign language communication? Have your foreign language proficiencies improved, and, if so, in what ways?) A. I feel I improved my English skills while I stayed in Australia. By belonging local athletic club, I could make many circumstances to talk to native English speakers. Joining the local community is an easy way to improve my English skills.

(d) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか？行く前に準備しておけばよかったことがありましたか？(Would you tell us about the challenges you met in your cross-cultural experiences? Please refer to what troubled you, or was difficult for you, if any, while you were there. Was there anything you wished you had better prepared for before going?) A. As I mentioned, running with local students is the biggest challenge I've ever experienced. However, thanks to my clubmate I met in there, I could spend time comfortable.

(e) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか？例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。(Did you find any "international" difference(s) between Japan and the host country, such as differences in terms of cultures and customs, university classes, people's attitudes and behaviors, social organizations, and so on?) A. While I was taking a class, I realized people who came from other countries were active in answering the questions from teachers. I should imitate it.

(f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。(Did you find any diversity that exists within the host institution, its surrounding communities, or the larger society? If so, please describe it.) A. There was a pretty rich area where I stayed. Most neighbors take caring for dogs and they are very social throwing their dog walking

(g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか？(In what ways are you planning to use what you gained from the study abroad experiences in the future?) A. I made some good connections with others while I stayed there. So, I'll cherish it and continue to connect with them.

(H) 次の参加者へのアドバイスはありますか？(What advice would you give to those who are planning to join the same program/study at the same school next year?) A. You should join a club or group with locals. It makes a lot of circumstances to talk in English. Most people are of the same origin and make friends who use the same language. By joining a local club, you can make local friends and spend useful time.

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日~3月8日)

(a)研修先は、オーストラリアのメルボルンにある RMIT 大学です。学部提携のプログラムで、宿泊先はホームステイでした。当時は二月だったので、日本は寒く、出発日の日本は雪が降っていましたが、南半球にあるオーストラリアは季節が逆なのでとても暑く、30℃を超える日も珍しくありませんでした。 (b)メルボルンはとても大きく、発展している街だったので、観光が楽しかったです。海も近く、動物園や店もなんでもあり、飽きずに楽しめました。私は短期研修だったので週末は4回でしたが、もう少し自由に観光できる日が欲しいと感じるほどに、いろいろな場所で楽しむことができます。 (c)キャンパスには、日本人の他にコロンビアやサウジアラビアから来た人など、いろいろなところから人が集まったので、貴重な異文化交流の体験ができました。彼らとの英語でのコミュニケーションを通して、英語力とコミュニケーション力が向上したと感じました。 (d)現地の気候については調べたほうがいいと思います。私の研修先は日差しが大変強く、サングラスと日焼け止めが必須でした。英語に関しては、やはり初めは現地の英語が聞き取りづらいつ感じました。しかし、日を追うごとにだんだんホストファミリーの英語が聞き取れるようになり、難しいぶん成長を感じることができました。 (e)ホストファミリーが毎週、親戚を集めて土日にパーティーを開いていたのが印象的でした。大体 20 人ほど集まっていたと思います。また、私の宿泊先のホストファミリーは犬を飼っていたのですが、日本の犬を飼っている家庭と比べて、彼らのほうが犬を家族の一員として見ている程度が強いつ感じました。日本と比べて、彼らの仲間意識や、外からの人を受け入れる文化があるのだと思いました。 (f)電車やバスの中でもしゃべっている人が多く、にぎやかな印象を受けました。 (g)コミュニケーション力を将来に生かしたいです。 (h)行くまでは緊張するかもしれないけど、楽しいので安心してください。

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日~3月8日)

- a) I went to Melbourne, Australia. First, about my host family. I had a 75 year old host mother. Her personality was bright and cheerful. I ate breakfast and dinner made by her almost every day. It was so delicious that I was not willing to eat outside. I was sad to leave Melbourne because my host mother was always kind to me. Then, about my school. I went to RMIT English training school. Half of my classmates were Japanese. The lecture was easier than ISS classes.
- b) I went to LUNA PARK with a friend of mine. It is one of the oldest amusement parks in the world. Attractions were very scary for me but it was so fun. In addition, I enjoyed shopping at some places. Specifically, DFO south wharf, and Melbourne central. I was also happy to eat some sweets. A friend of mine found a delicious ice cream shop in the CBD. I really want to go there again.
- c) The important thing in terms of foreign language communication is not being shy. I just tried to keep talking. By doing that, I was able to speak English more fluently than before.
- d) Melbourne is similar to Japan, so I got used to it quickly. There were a lot of Japanese stores. For example, DAISO, UNIQLO, and LOTTE. I was not concerned with my life. However, It was difficult for me to explain my thoughts exactly. To solve this problem, I changed my words and phrases into simple ones. By doing that, I could speak my opinion easier than before I left Japan.
- e) Australian people tended to ignore traffic lights. They kept their own pace I thought. At language school, I was surprised to see students of various nationalities.
- f) I saw some couples who applied for LGBT+Q. They were much more lively than those of Japan.
- g) I keep making an effort in terms of studying English. Specifically, I want to get a high-score on the TOEIC.
- h) I regret that speak Japanese a lot. Thus, I strongly suggest you talk with many people who have a different nationality.

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日~3月8日)

I was part of the RMIT online course and it was an interesting experiment even though all the classes were taught via zoom. To be honest, the English level throughout the course was too low for me and I don't think I had any step ups in terms of the language ability, but there sure were things that I learned through taking this course. Since it was all online I tried to speak up a lot and not make it easy on me by asking my professors for extra or different assignment. I also had difficulties talking to other students from other countries, who can't speak English at the same level. There was also a student who wasn't concentrating and always on video game which made some of the breakout rooms a little uncomfortable for everyone. The international or cultural differences that I found were that the professors were always trying to make the class enjoyable and make sure everyone in the class are with "the class" where usually in Japan they don't. There were times where professors dog or children joined the class and it definitely made the students focus on the screen and enjoy the moment. They asked us if we are understanding everything and made sure that no one is left behind. At the same time, about that one student who was always on video games, professors had a moment with him personally and forced him to stop which I think is great as a professor of university where most professors don't really care about what each students are doing during the class. I would say the most valuable thing that I learned was to keep pushing myself but enjoy at the same time, and respect everyone even though we are all different in terms of a lot of things, such as culture, color, and even English level. As an advise, I would obviously recommend to go abroad physically and experience the life itself outside Japan because that's the whole purpose of studying abroad (which I did during the gap year after that). Although if you have 部活 or other things which don't let you leave Japan, you can still learn a lot through this online course.

研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日～3月8日)

(a) 私はオーストラリアにある RMIT 大学の語学学校に 1 か月ほど留学しました。宿泊先はメルボルン近郊にあるホストファミリーの家でした。研修先や宿泊先での生活は新鮮なことが多く、とても刺激的な日々でした。 (b) 日常生活や授業での経験で一番楽しかったことは、授業後にクラスメイトとともにビーチに行き、サンセットを見に行ったことです。ビーチに行く前に食べ物を買っていき、夕日を眺めながらご飯を食べ、様々なことについて話したことを覚えています。夕日が地平線に落ちていく様がとても綺麗であったことを今でも覚えています。 (c) 外国語コミュニケーションで最も重要なことは、間違えを恐れずに積極的に会話をするということであると、海外研修を通じて感じました。座学も大切だと思いますが、個人的には、授業中や授業後のクラスメイトとの日常的な雑談でのほうが、より刺激的で実践的であると感じました。実際、クラスメイトと意思疎通がうまく取れた際には、とてもうれしさを感じました。このような経験を通じて、特に英語でのコミュニケーション力という面で、自分の外国語能力は向上したのではないかと思います。 (d) 自分の留学プログラムは 1 か月間と短期であったため、他国の友達を作ることが少し難しかったです。元々の英語力が高い状態であれば、すぐに英語でコミュニケーションをとり、仲良くなることができますが、自分の英語力、特にスピーキングスキルはそれほど高くなかったため、初期の頃はコミュニケーションをとることに苦労しました。そのため、特に短期留学の場合は、留学前にスピーキングスキルを磨いておくことで、現地に行った後も円滑にコミュニケーションをとることができ、序盤からより充実した留学生活を送れると思います。 (e) 日本とホスト国での違いは多く感じました。例えば、自分のホスト国であったオーストラリアでは、バスが時間通りにバス停に着くことはほとんどありませんでした。そのため、毎回バス停で待つ必要があり、少し厄介でした。また、バスに搭乗しても、次の目的地などのアナウンスは車内で流れませんでした。そのため、自分がどのバス停で降りるのかを把握しておく必要がありました。このように少し困る違いもありましたが、その一方、人々はとても優しく、店に行くと気さくに挨拶してくれることが多かったです。このような国による違いを感じるのは自分自身初めての経験であったのでとても興味深かったです。違いを知ることで、改めて日本の良さや改善したほうが良いと感じる点を見つけることができました。 (f) 自分の研修先であるメルボルンはとても多様な場所でした。シティに行くほとんどすべての人種の人々がおり、その光景は日本であまり見られないため、とても新鮮でした。またクラス内でも様々な人種の人々がおり、その人達の文化やバックグラウンドを、会話を通じて知ることはとても楽しかったです。 (g) この海外研修の体験で、自分の中の価値観が広がり、より海外の人々の考え方や文化を知りたいと感じたため、この刺激を忘れずにこれからの人生に活かしたい。違う国の文化を知ることは、自分の中の固定観念や価値観を変えてくれるものだと思います。 (h) 失敗を恐れずに何事もチャレンジしたほうが良いと思います。特に短期留学であつたら時間はあっという間に過ぎてしまうため、自信がないかもしれませんがそのようなことは気にしないでやりたいこともあまり乗り気ではないこともすべてチャレンジしてみるべきだと思います。どのような結果になったとしても、後の自分への良い経験になると思います。



研修期間	短期
プログラム (日程)	オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学プログラム (2024年2月9日~3月8日)

国際社会科学部が主催する、4週間のオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学附属語学学校語学プログラムに参加した。出発前日は都心でも積雪があり、フライトが心配されたが、無事に成田からメルボルンまで概ね時間通りに渡航することができた。ホームステイ先は、お父さんはマルタ出身、お母さんはベトナム出身、弟は9歳の男の子の家庭だった。クリスチャンで食事の前は必ずお祈りをする習慣があった。お父さんはコンクリートトラックの運転手だが、12月からトラック買い替えのため仕事ができおらず、手配できた2月末にやっと再開できていた。高速道路の工事などに携わっているようで、朝3時頃には家を出ることもあった。お母さんは保険会社のコールセンターのパートをやっており、午前中に家で仕事をしていた。しかし3月中旬には退職するようで、今後は夢である高齢者介護のホームヘルパーの仕事に携わると話していた。弟はテニス、水泳、武道などのスポーツを習っていた。水泳教室について行った時には11レベルを修了し、12レベルに進級していた。また、夕食前後でお母さんと宿題や予習、スペル練習をやっており、宿題を手伝ったこともあった。食事は、お母さんお手製のアジア料理や、お父さんのパスタを食べることが多かった。お父さんがマルタ出身だったこともあり、全体的にチーズの料理が多かった印象だった。週末にはBBQやキャンプファイヤー、外食などを企画してもらい、温かくもてなしてもらった。シーフードパスタやラザニアの他にも、カッテージチーズが中に入ったラビオリのパスタや、貝殻の形のコンキリエのパスタなど、日本では馴染みのない種類のパスタを作ってもらった。また、サルマーレ(酢漬けキャベツのロールキャベツ)、スイカサラダ(スイカとミントとフェタチーズ)などメニューがバラエティ豊かで、食べたことのない料理に挑戦できる食事の時間がとても楽しみであった。学校からは1時間半ほど離れていた。バスは停留所に関する車内放送がなく、電車は同じ路線でも目的駅に停まるかどうかが列車によって異なるため、慣れるまでは非常に大変であった。週末はバスや電車の本数が激減し、遅延も多いため、遠くまで遊びに行くことや人と待ち合わせすることが難しかった。また、平日でも道路工事や車両修理のためにバスやトラムが運休、振替輸送などがあり、交通の便は良いとは言えなかった。最初の頃はバスと電車を乗り継ぎ、片道約30分かけて家の電車の最寄駅まで行き、そこから約15分かけて学校の最寄駅まで移動していた。しかし、約5分バスでトラムの最寄駅まで行き、約45分トラムで学校の最寄まで行く行き方もあることを知った。電車の場合にはどの電車に乗るべきかを判断することが難しく、トラムは始発駅だったため、バスとトラムを乗り継ぐ方が時間はかかるものの快適に移動できた。語学学校のクラスは15人前後で半数が日本人、残りが西アジア地域と中国や香港出身のクラスメイトであった。RMIT独自の教材を用い、関係代名詞、比較級、過去完了、直接話法、間接話法、などについて学んだ。座学だけでなくゲームやアクティビティ、またScavenger Huntという街の中を実際に歩いてグループごとに写真を撮って点数を競い合うイベントもあり、アクティブに学んだ。学習院大学国際社会科学部以外にも、大妻女子大学や都留文科大学、関西外国語大学、群馬大学、國學院大学などの日本人が来ており、他校も概ね4週間のプログラムであった。語学学校のクラスは、L2からL7の6段階に分かれており、当初はL5の午後のシフトに振り分けられた。しかし、ホストファミリーとの時間を優先したかったため、L4に下げて午前のシフトに変更することに決めた。なぜなら、ホストファミリーは普段17時頃に夕食を食べているようで、19時に帰宅する私のことを待っていており、申し訳なくなったからだ。また午前中は、弟は学校に、お母さんとお父さんは仕事に行ってしまうため1人になることが多く、ほとんどホストファミリーと会話をする時間がなくなってしまったからだ。変更してから朝は5時半起きで大変ではあったが、午後に友達と観光をして、夕食を17時過ぎにファミリーと食べ、その後ゆっくりする時間がある生活のほうが良かった。授業外の時間には友人と過ごすことが多く、観光名所を訪れたり、生牡蠣や名物クロワッサンを食べに行ったり、ランチを持って自然豊かな公

園で食べたりもした。また、2月末には語学学校主催のグレートオーシャンロードトリップに参加し、海辺の崖の景色を堪能した。1ヶ月は短い期間ではあったが、英語を日常的に実践した時間は自分の人生において貴重な学びの時となった。特にオーストラリアは多国籍国家で多様な文化や宗教に溢れており、人種を問わず平等に接する文化に触れたことで自分の価値観が広がったように思う。また、これまでアメリカ英語で勉強してきたため、馴染みのなかったオーストラリアや他国の訛りは聞き取れず苦戦した。しかし、語学学校やファミリーと何度も話していくうちに徐々に分かるようになり、より多くの人と英語でコミュニケーションを取れるようになったと実感した。また、自分の英語の自信にもなった。これからも、この経験を糧にさらに英語力を伸ばして社会で活躍していける人材になりたいと思う。

研修期間	短期
プログラム（日程）	シンガポール・EF International Language Campus 語学プログラム（2024年2月26日～3月29日）

- (a) シンガポール 研修先はEF Language school Singapore 宿泊先はホームステイで一つの家に4人の留学生が生活する形で、一つの部屋に2人ずつで分けられていた。
- (b) 学校のアクティビティでホリフエスティバルに参加したこと。ホリフエスティバルはシンガポールで1番危険な祭りと呼ばれていて、色のついた粉を投げ合うインド系の伝統的なお祭りである。セントーサ島のビーチに行き、知らない人と一緒に粉を投げ合い、その場で仲良くなることができた。日本にはなかなかない体験型のお祭りだったため、特に印象に残っている。
- (c) 留学中に学んだ最も重要なことは、簡単な単語でも簡単なフレーズでも話し続けることである。日本で大学の授業などで英語を話す際、相手も日本人なので自分の英語力がたりず、伝えたいことを伝えられないと日本語で話してしまっていた。しかし、留学先で会話を知る相手は日本語が通じない為、英語でしゃべり続けるしかなく、その経験が自分自身の語彙力や適応力を向上させたと思う。話続けると相手も真剣に聞いて理解しようとしてくれて、会話が長く続いた。
- (d) 特になく、日本との大きな違いはなかった。
- (e) 私のホームステイ先にはいなかったが、家にシッターがいる家庭が多いように感じた。家にシッターがいて子供の面倒やホームステイしている留学生の面倒を見てもらえる分、は母親や父親が仕事に集中できる環境づくりがされていると感じた。その部分では日本よりも進んでいると感じた。
- (f) シンガポールは多国籍国家であるため、インド系、マレー系、中華系など様々な人が暮らしており、街の中でもそれぞれの文化が共存していた。みんなルーツは違っていたとしても、シンガポール人としては同じであるため、それぞれがお互いを認め合っているのを感じ取れた。
- (g) ひシンガポールで過ごした一ヶ月は短いものだが、日本以外の文化に触れることのできた貴重な時間である。現地で培った英語力やコミュニケーション能力を衰えさせることのないよう、大学の英語の授業でもたくさん発言するなど、英語に触れる機会をさらに多くもつようにする。
- (h) シンガポールは日本と似ていて過ごしやすい国です。

研修期間	短期
プログラム（日程）	シンガポール・EF International Language Campus 語学プログラム（2024年2月26日～3月29日）

(a) 私はシンガポールに留学を行いました。滞在先は寮を選び、V Lavender Hotel というホテルに泊っていました。毎日清掃が入り、アメニティーも補充してもらえました。

(b) シンガポールの生活で最も楽しかったことは、3月後半にアクティビティーという形で参加したHoli Festival です。ヒンドゥー教の祭りでシンガポールの中でも最も大きな祭りです。私が参加したものは約7000人の規模で行われていました。

(c) 外国語コミュニケーションで最も必要であると感じたのは、わからない単語があっても、簡単な単語に置き換えたり、わかりやすい具体例などを挙げて説明することです。私は語学学校へ行っていたので、お互いに分からない単語があるシチュエーションが発生しましたが、お互いがお互いを補強し、コミュニケーション能力の向上につなげることができるようになったと思います。

(d) シンガポールは多文化かつ多言語が通じる国であることを活かし、第二外国語として学習しているアラビア語を話すチャンスを作ることができました。ムスリムの友達を作ることに関わり、すごくよかったなと思う反面、リーディングの勉強ばかりしていたので、もっと会話の練習をしてあげればよかったと思いました。

(e) 交通機関で電話することが普通であること。ハラルフード、ノンハラルフードの仕分けがされたお皿の返却口が必ずあること。

(f) 多文化であるため、チャイナタウン、リトルインディア、アラブストリートのように文化が集まった場所が多く、さらにその地域ごとにそれぞれの文化を持つ人が集まっているため(生活、お店の経営)場所によってさまざまな言語や文化を感じられました。

(g) 見聞きした文化をアイデアの材料として活かしていくこと。また語学学習のモチベーションの向上にすること。

(H) 多様性を認め尊重するためにも、宗教のタブーなどある程度の知識を事前学習しておくべきであると思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	シンガポール・EF International Language Campus 語学プログラム (2024年2月26日~3月29日)

(a) どこへ行きましたか? 研修先および宿泊先について少し教えてください。 ・研修先 →EF シンガポール校。 Clarke Quay 駅から徒歩5分の5階建てのビル。屋上では週に1回パーティが開かれる。 パーティ以外にも学校が様々なアクティビティを用意しているので積極的に参加しよう。 ※特に、ウェルカムディナーはEF生徒の友達が作れるのでおすすめ。 シンガポール中心部のど真ん中に位置しており、放課に観光に出向くのに適している。 ※学校から徒歩5分のChina Townは安くておいしいお昼ご飯を食べに行くのに最適。 9:00 - 17:00のうち、80分のコマが2, 3個ある(月~金、土日は休み) 内容はB2.2クラスでは大学の必修英語の授業とほとんど変わらない。 ※シンガポールは午後7時半ぐらいまでは明るいので午後からでも余裕で観光できる。 ・宿泊先 → Springleaf 駅から徒歩16分の民家へのホームステイ(シンガポールの北の方)。 家のお手伝いさんが洗濯・掃除・炊事等を行う。 1人部屋か2人部屋かのオプションを提示され(寮の場合も同様)、私は2人部屋を指定したが、 実際には最大9人収容可能な家の3人部屋だった。 シャワー・トイレルームには仕切り有。ベランダ付き。プライバシーはほとんど守られない。 部屋にはベットと棚が3つずつ並べられている他なく、かなり狭い。 家賃は5週間で2万円程度(洗濯代14SGD/週、電気代21SGD/週)。 朝晩の食事は無料(昼は土日のみ)。Wi-Fi有。 ※洗濯代はオプション。洗濯物に色移りしたり、穴が空いたりしたので支払わない方がいいかも… (b) 日常生活

またはキャンパスでの授業や授業後の経験で、一番楽しかったことはなんですか? →シンガポール中心部をほとんど歩き回ったこと。 ※万歩計を確認したら一日平均2万歩歩いていたらしい。

(c) 海外研修期間で、外国語コミュニケーションに関して学んだ最も重要なことは何ですか? あなたの外国語能力は向上しましたか? もしそうなら、どのような点においてですか? →沈黙が一番ダメということ。何かを話し出せば周りがサポートしてくれるので大丈夫。 (d) あなたの異文化経験でのチャレンジについて教えてください。困ったこと、あるいは難しかったことがありましたか? 行く前に準備しておけばよかったことがありましたか? →マレーシアに旅行したときに英語が通じなかったこと。 ※シンガポール国内ではほとんど通用するのでわからないと言われたときに困り果てた。 →食事が自分の口に合わなかったこと。 ※タイ米が特にダメだった。

(e) 日本とホスト国の「国際的」な違いはなあ、と気づいたことはありますか? 例えば、文化や習慣、大学の授業、人々の態度や行動、社会の仕組みの違い等です。 →シンガポール人の友達が現地の家族・友達と話すときに中国語と英語を混ぜこぜで話していたこと。 ※シンガポール人はいわゆる“Translanguaging”を地で行っているらしい。

(f) あなたの研修先/宿泊先やその地域あるいは社会における多様性について、気がついたことがあれば、それを記述してください。 →宿泊先のお手伝いさんはマレーシアから出稼ぎに来ていたということ。 話によると、マレーシアで働くなら時給300円程度しか稼げないため、就労ビザを取ってでも シンガポールへ出稼ぎに来る方が儲けられるとのことだった。

(g) 海外研修の体験をどのようにこれから活かすつもりですか? →多文化理解への関心を持つ良い契機だったと思うので、 帰国後もその分野についてより勉強を深めるつもりである。 (H) 次の参加者へのアドバイスはありますか? →日が物凄く照っているため、日傘と帽子は絶対に持って行くべき。 シンガポールのほとんどのお店がクレジット払いに対応しているが、 友達と割り勘するときなど、

キャッシュが必要になる場面が多くある。

※ホーカーストアなどはほとんどが現金払いである。

研修期間	短期
プログラム（日程）	その他（再履修者のため2024春以前のプログラムに参加）

A,私は国際センター主催のディーキン大学短期研修に参加した。ディーキン大学はオーストラリアのメルボルンに位置する大学で世界トップ 10%に所属する大学である。私はそんなディーキン大学が所有する語学学校に通った。 B,私は留学中、ホームファミリーの下で衣食住を行った。まだ幼いお子さんが二人おり、とても賑やかでフレンドリーなご家族だった。中国系の方たちだったため食べなじみのある料理ばかりでとても快適であった。 C,選びきれない思い出が無数にあるが中でも印象的なことは現地でできた友人との時間だ。私は留学前から現地で海外の友人を作りたいと考えており、チャンスがあれば積極的に話しかけるようにしていた。そのおかげでたくさんの友人を作ることができた。その中でも初めてできたイラン人の友人とはジムに行ったりお互いの食文化を紹介するためにラーメン屋やイラン料理の店に行った。その友人とは帰国後の現在も連絡を取っている。 D,オーストラリアは優しくおらかな人々が多かったイメージで、とにかく皆ルーズだった。一度バスの運転手にある場所への行き方を尋ねた際、運転席から降り本部に連尋ねてくれるなど、懇切丁寧に教えてくれた。交通機関の遅延などは日常茶飯事であり学校の始業に間に合うバスに乗ることに慣れるのには少し時間がかかった。 E,オーストラリアには日本以上に様々な国の飲食店が立ち並んでいたと感じた。町全体を通して、様々な人種の人々住んでいるように感じ、多文化が入り混じった国であったと感じた。 F,日本は観光客が多いこともあり駅の表示が英語、中国語など様々で駅のアナウンスも英語を使用している。しかしオーストラリアは日本に比べ様々な人種の方々が住んでいて、特に中国系の人々も多く、中華街があるほどであったにもかかわらず、駅の表記もアナウンスも英語のみであった。 G,海外経験を経て今までにはなかった。様々なk痴漢を身に着けることができた。特に現地の友人は30歳などの人もざらで一度働いた後に大学に来ている人も多く、私は歳など関係なくやりたいことには積極的にチャレンジすることを学んだ。短期であったため英語は少しの成長しか見込めなかったが、この機会に英語上達に向かい努力していきたい。 H,短期のためあまり意味がないのではという人もいると思うが、英語以外にも普段の生活では味わえない様々なことを体験できる素敵な機会であったと感じた。自分から話しかけるなど積極的な態度をもって素敵な体験をしてもらいたい。

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・オンライン FPT 大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

I stayed at my home, Japan, while I took the FPT online program. What I notably enjoyed during the program is the English classes that is held in the former part of the program. The knowledge and vocabulary in terms of which is frequently used in the business occasion are quite practical for the latter experience and my carrier. I learned that the efficient way to tell what I exactly want to tell or ask through emails or messages online. Job experience is offered by a non-profitable organization that conduct online English education within Vietnam. As regards the situation of English education in Vietnam, there are significant inequalities depending on the area in terms of the quality and the opportunities to take English education for the youth. I was quite passionate to associate with the organization that contributes to change that situation. That experience nourished my skills regarding not only business communication but also initial tips of digital marketing. I can use this experiment in near future with in my carrier development journey.

Yet, I was confused and find it difficult to convey my opinions or emotions through online communication to the supervisors or colleagues. I should have get use to text messages which can express precise information and feelings.

In terms of the cultural aspect in Vietnam, as long as I could observe, the consciousness regarding time management and the thoughts on the work are varied depending on the person. That is a kind of internal differences and the similarities between Japanese culture and Vietnamese culture. In addition to that, Luner new year celebration was surprising. In Vietnamese culture, they respect to spend their time with their family during the holidays of Luner New year. It's similar to what we do in Oshogatsu. Yet, the time range and the food they have is totally different. Mentioning the cultural differences, I also recognised the difference in transportation the Vietnamese people use and consciousness over privacy. Firstly, speaking of transportation, they tend to use motor bicycle on daily basis. In contrast , Japanese tend to use motor vehicles or public transportation. Secondly, I would highlight the tendency regarding the privacy concerns on social networks, especially portrait rights. That was recognised when I worked on posting some advertisement on SNS page of the organisation. The contents were about interviewing the volunteer teachers who lived in the other countries. The teachers hesitate to post their pictures on SNS due to the concern on portrait rights. Yet, the supervisor repeatedly asked for the pictures of their face because she believes that makes the posts more attractive. In parallel , the students I also interviewed easily permitted to share their personal pictures for the public posts I created. Seen in this light, the thoughts on privacy are notably different in Vietnam.

The job experience I got through the program is little different from prolonged expectations of my career. Yet, it was a precious opportunity for me to experience the initial training regarding digital marketing and associating people from different countries.

I would strongly recommend the future students who will take this program that to attempt to improve their vocabulary and the skills to speak English orally and text based. In case the task was exceeding their abilities or capability, or they got any questions and requirements regarding the job, they should speak up confidentiality without being impolite. The company's members they work with are not their teacher. They also have other tasks as their main work. However, once you ask something politely or with a positive attitude, I am sure that



they will delightfully support you.

I faced a bunch of troublesome things during this experience including technical difficulties or stressful situations. Yet, it was enjoyable enough as a cross-cultural experience

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・オンライン FPT 大学職業体験プログラム (2024 年 2月26日~3月29日)

研修はオンラインで行われました。基本的にLINE/google classroom/google meet/WhatsApp を使い、FPT 大学のビジネス英語講習と文化交流のようなプログラムと、現地のマーケティング会社である Enjoy Creative が主催するインターンシップの研修を受けました。約 1 か月のプログラムを通して特に自身の外国語能力が向上したとは思いませんが、研修の初めの 1 週間で学んだビジネス英語や自己分析、CV 作成に関するクラスは就職するにあたって役に立つものだったと思います。オンラインだったので特にすごく難しいと感じたことはあまりありませんでしたが、個人的にベトナムの訛りに慣れておらず、オンラインツール越しでのコミュニケーションだったので余計リスニングがなかなかできず苦労しました。ただインターンシップ先の方や FPT 大学からの生徒たちなどもわかりやすいように何度も伝えてくれることや言い回しを変えてくれることはありました。オンラインだったこともありあまり国際的な違いは感じ/わかりませんでした。逆に国民性や行動が日本人に近いと感じることはありました。しいてひとつだけあげるとするなら、日本人よりも連絡や返信は遅いと感じることは何度かありました。一応語学学習ではなくインターンシップをメインとしたプログラムではありましたが、研修中に学んだビジネス英語の講習やその中で行った CV 作成やプレゼンテーション、自己分析は日本でももちろん使えるスキルだったので活かしていきたいです。またインターンシップ先ではデータを集めて分析をすることなどが多かったため、これからの授業などにも活かしていけるかなと思います。ある程度聞き取って自分の考えをその場で伝えることができるくらいのレベルでないとこの研修は厳しいような気がするので、リスニングとスピーキングを重点的に鍛えておいた方がいいと思います。インターンシップ先も 2 つだけと大して選択肢はないので、英語に関する研修もインターンシップもあとは個人のモチベーションだと思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・オンライン FPT 大学職業体験プログラム (2024 年 2月26日~3月29日)

(a)私はオンライン留学でベトナムの FPT 大学が提供した短期プログラムに参加しました。オンライン留学でしたので、ネット上で授業を受けて、その後職場体験に参加しました。研究先の FPT 大学はベトナムの有名企業が 2006 に設置した大学で、学習院大学と違い三つのキャンパスを持っています。 (b)そしてプログラムを通して一番楽しかったのはベトナムの学生も一緒に参加する English Peer Tutoring でした。この時間では先生がいなく、学生がリーダーになり決まった話題についてプレゼンをし、みんながそれぞれ自分の意見や経験を話す授業になります。ベトナム人学生の話聞いて、ベトナムの若い人の考えやベトナムの大学のシステムについて知りました。 (c)プログラムを通して、最も重要だと感じたのは英語を話す勇気を持つことです。私は職場体験も行いましたので、その過程でベトナムの方とコミュニケーションをとる必要がありました。そこで勇気を出して英語を使わないと与えられた任務が終わらないので、英語をたくさん使いました。 (d)プログラムの中で困難にも遭遇しました。ベトナムの方は返信が少し遅くて、この点において困ったと感じました。私は仕事に受け付けた質問に返信するのは早いものだと思いますが、オンライン留学中にその返信をもらうのに時間がかかることもありました。コーディネーターの方に質問などをしたい時は余裕を持っていたほうが良いと感じました。また、事前に時間を教えてくれなかったミーティングもありまして、お知らせが来るのを待つよりも、自分から質問すればよかったと思いました。 (e)国と国の違いを感じたのは、Warm Up のためのゲームが日本より多いと感じました。日本ではそのまま自己紹介に入ることは多いが、ベトナムでは True Or Fake というゲームを通して自己紹介を行うことが多いです。また、人々の態度も日本よりリラックスな雰囲気を感じました。日本では上司と話すときに正式なメールを送る必要はあると思いますが、ベトナムではリラックスした会話になると感じました。 (f)ベトナム国内の違いも感じました。例えば、都市と都市の違いがあります。ホーチミンは活力のある町、ハノイは政治の中心地で、ダナンは海に近く災害などが起こりやすいので、今お金を稼いでいる町であると気が付きました。また、ベトナム人学生と交流するときに、ベトナムにおける男女の差にも気が付きました。男子学生は自分の将来や職業について話す代わりに、女子学生は将来結婚の自由、職業の自由はないと話しました。このことから、ベトナムにおける男女の差はまだ存在すると感じました。 (g)留学の経験を、これからの英語学習に活かすつもりです。 (h)そして留学を行うときに、積極的にホスト国の方と交流することが重要だと思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・渡航型 FPT大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

I went to Vietnam for five weeks. I took business English classes for the first week. Then, I had work experience in the media team for the rest of the four weeks. My study abroad program included some activities on weekends, such as an intercultural event and city tours. I had stayed at a hotel with students from the same university. I really enjoyed interacting with local people. Everyone was very friendly and tried to communicate with us even though we did not speak Vietnamese. I sometimes keep in touch with some people I met there even now. I learned that it is important not to be afraid of making mistakes in terms of foreign language communication. Before studying abroad, I tried to use perfect English, but it would be better to not be afraid of making mistakes and learn from mistakes. "Don't be shy and communicate actively" was one of my key lessons. So, my English language skills would improve, because I had a lot of time to share my opinions with my own words without using translation. I went to a foreign hospital alone, and it was sometimes difficult to express what I wanted to say clearly, but such difficulties were fresh and interesting for me. There were a lot of international differences between Japan and Vietnam. People's attitudes were big differences for me. The Vietnamese were so friendly that they talked to even strangers and smiled at everyone. I feel some distance from others in Japan. So, during Vietnam, I was an extrovert although I am usually introverted in Japan. Moreover, I found that Japan is very homogeneous. There are many rules in Japan and everyone follows the rules and is very polite and hardworking. On the other hand, Vietnam is more diverse. They are not strict on time, traffic is free and they do what they want to do freely. Of course, it is important to follow social rules so that everyone lives comfortably. However, strict rules and pressures of always caring about others would make us tired. I felt that Vietnamese have rooms in their mind. We Japanese would be better off spending more time with ourselves and living more freely. The experience in Vietnam brought me a new point of view. I got choices to work not only in Japan but abroad. I really like the working style in Vietnam. I found that even though I do not speak the local language, I enjoy it very much. So, I want everyone not to be afraid of jumping into a new environment. The experience of studying abroad would make you confident in terms of not only language skills but also getting out of your comfort zone and overcoming difficulties.

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・渡航型 FPT大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

In the spring of 2024, I went to Vietnam for short term studying abroad. I stayed in Danang which is famous for beautiful beach. Our host university is FPT university. This one is getting more famous in the world because it is doing efforts for providing high level of English education. This program is for about one month. We stayed at hotel in Danang and it provides breakfast, so we didn't have to prepare it. To convey some information about my experience in Danang, I would like to mention about my daily life and internship, English skills, international challenges and how to make good use of this experience. In terms of daily life, we took business English class in the first week and from 2nd week, we started internship in several company: English school, elementary and primary school and marketing team at FPT university. I participated in English school in Danang. My duty was preparing warm up activity and give some advice to Japanese students. There were students from Brunei. They came Vietnam as an internship student same as me. I went out with them, so we could share some cultural differences through this internship. It was interesting and I could learn about not only Vietnam culture but Brunei. Through this experience, I began to think that the most important thing for communicating in English is trying to convey what you want to say. I couldn't speak in English well, but my friend and teachers listened to me carefully and I noticed that trying to say something to others makes them feel like want to understand what you want to convey to them. I'm so glad to know it because I became not hesitate to speak in English. One of the most interesting challenges was riding motor bicycle. Every time I went to host company or going out to beach or restaurant. It was cultural differences between Japan and Vietnam. Vietnamese usually use it as their transportation system. It was a little bit scary, but exiting and interesting experience. I would like you to say that it is better to prepare Vietnam Don because some students didn't exchange yen to don before going to there, so they had to exchange it at an airport. This program provides you wonderful experience in Viernam.

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・渡航型 FPT大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

私はベトナムのダナンにある FPT 大学に研修に行きました。宿泊先はダナンにある Nostalgia Boutique DS Hotel でした。二人で一つの部屋でした。朝食だけがついていて、ベトナム料理などの種類豊富なバイキングでした。私が参加したプログラムは一週間の語学研修と四週間の職場体験でした。語学研修では、先生が、ビジネスの場で使う英語や、ビジネスメールの書き方、プレゼンなどを教えてくれました。四週間の職場体験では、メディア関連の企業に行きました。実際に台本を考え、動画を撮影し、編集を行いました。このプログラムの中で一番楽しかったことは、職場の人たちといろいろな話題でお話していた時間です。ベトナムのおすすめスポットを聞いたり、おいしいご飯屋さんを紹介してもらったりしました。このようなたわいない時間がとても楽しかったです。この海外研修期間において、外国語コミュニケーションに関して学んだことは、恐れずに話すということです。会話において間違えたり詰まったりするのは仕方ないことだとおもい、とにかく話すことが大切だと強く実感しました。外国語能力が向上したかどうかはわかりませんが、英語で会話している時、言っていることがわからなかったときは、あいまいにせず、恥ずかしがらず聞き返すことを徹底しました。また、ベトナム語に関してもバディや現地友達から教えてもらいました。異文化経験におけるのチャレンジは、生活環境の違いです。ベトナムは発展途上国であり、生活環境がとても良いとは言えません。その中でも特にお風呂に苦しみました。私の部屋のお風呂は床が排水溝とは逆に傾いていて、毎晩床が水浸しでした。また、シャワーの水が冷水だったり、湯船につかれなかったりといった苦勞もありました。日本とベトナムの「国際的」な違いは働き方です。私はメディア関連の企業にインターン生として働いていましたが、職場環境はとても素晴らしいものでした。日本では残業が当たり前であったり、働く場所が決まっていたりしますが、ベトナムでは、休憩時間に仕事をしているとなんで仕事をしているのと驚かれたり、退勤時間になったら早く帰りなと言われてました。また、ナップタイムというお昼寝の時間もありました。ベトナムではストレスフリーに働くことを第一に考えていると感じました。私が滞在していたダナンはベトナムの中でもリゾート地として有名な場所であったため、観光客がたくさんいました。海が近かったため、海辺を散歩していると現地の人はもちろん、観光客の人たちも話しかけてくれました。日本では待ちゆく人に声をかけるというのはなかなかないので、人との距離の近さの違いを感じました。日本人だから、言語が違うからといった理由は全く関係なく、人の温かさを感じることができました。今回の海外研修で、世界には自分の知らない魅力がまだまだあり、それは現地でしか体験できないものだとして強く実感しました。このような経験をもっと自分でもしたいと思ったのと同時に、もっといろいろな人に経験してほしいと思いました。このような感動を届ける仕事をしたいと改めて強く思いました。次の参加者には、とにかくいろんな人とかかわって視野を広げてほしいと思います。

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・渡航型 FPT大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

(a) ベトナムのダナンに行きました。研修先は FPT 大学および FPT Education Global という会社 (インターン先) でした。メディアチームで動画や写真を撮影して、それを編集するのが主な仕事内容でした。宿泊先は Nostalgia DS hotel というホテルでした。ホテルは時々備品が壊れたり、Wi-Fi が弱かったりしましたが、大きな問題点はありませんでした。

(b) 一番楽しかったことは、平日の帰宅後や週末などの自由時間に外に出かけて、地元の人と交流したことです。物価が安く、治安も悪くないので SNS で行きたいカフェやご飯屋さんを調べて行くのがとても楽しかったです。またベトナムでは主要な交通手段がバイクであるため、海辺や夜の街をバイクで存分に味わうことができ良かったです。

(c) 外国語コミュニケーションに感じて学んだ最も重要なことは、伝えようとする姿勢があればたとえ能力が不足していても他者とコミュニケーションをとることができるということです。大学と会社の方は英語を話せる方がほとんどでしたが、発音が独特で会話に苦戦することもありました。しかし、ボディランゲージや翻訳機、簡単な単語で十分に会話することができ、諦めずに伝えようとする大切さを感じました。

(d) Google 翻訳でコミュニケーションをとっていたため、もっとベトナム語を勉強していけば、現地の人と楽しく会話できたかもしれないと思います。

(e) 日本とベトナムの国際的な違いを感じたのは、人間性です。ベトナム人は穏やかでフレンドリーで親しみやすい方がほとんどでした。日本人より気性が荒くなく、ゆったりとした空気が流れていました。そしてなにより仕事と私生活をしっかりわけている印象があり、過干渉してこないドライな一面がすごく心地よかったです。

(f) ダナンはどこに出かけても海外からの観光客が多い印象を受けました。特にビーチ沿いのホテルは非常に多くの観光客が宿泊しており、夜にはバーなどでお酒を飲んで楽しんでいました。

(g) 私は今回の海外研修まで、海外に行ったことがありませんでした。ベトナムは治安も良く、人も優しく過ごしやすい国だったので、海外へのハードルが下がりました。先入観を持たず、実際に様々な国を訪れ自分の身体で体験することが大事だと思わせてくれました。

(h) 気候についてですが、2月最後の週から3月終わりまでのほとんどの日は28~32℃くらいで湿度も高かったため、バテないように水分補給をしたり、帽子を持って行ったりすることを強くお勧めします。また紫外線が非常に強く有害なレベルだといわれているため、日焼け止めを忘れずに！！

現地の人はほとんどが英語を話せませんが、とてもフレンドリーで優しく日本文化を好きな方が多いです。5週間は驚くほどあっという間に過ぎてしまうため、ぜひ翻訳機を使ってコミュニケーションをとってみてください。かけがえのない経験になると思います。また私は今回 FPT プログラムの参加者の中で唯一の1年生だったのですが、国社の先輩方と仲良くなり、様々なお話を伺うことができる非常に貴重な機会でした。2年生で留学に行く人がほとんどですが、あえて同期が少ない1年生の段階で留学に行くことで得られるものは多いです。ぜひ頑張ってください！

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・渡航型 FPT大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

a・私はベトナムのダナンというところに行きました。ダナンはベトナムの中部に位置しています。気温は二月でも熱く、半袖で過ごしていました。リゾート地で、近くにはとてもきれいな海があります。また、ドラゴンブリッジやナイトマーケットなど、観光として訪れるスポットもたくさんあります。犬がたくさんいるため、かまれないように注意する必要がありますが、治安はよくとても過ごしやすいところです。私が参加したこのプログラムは一週間ビジネスイングリッシュを学び、4週間配属された場所で職業体験をするというものです。私は小学校に配属されたため、小学校で英語を教えているネイティブの先生のアシスタントをしたり、実際にベトナムの小学生に英語の授業をしたりしました。また、研修中はホテルに滞在していました。とても快適な生活を送ることができ、FPTのプログラムに参加しているほかの学生たちとの仲も深めることができました。

b・日常生活の中で一番楽しかったことは、いろんな観光地を訪れることができたことです。日本では売っていないものを買ったり、日本では見られない景色を見ることができたりと、とても貴重な体験ができました。また、小学校で研修しているときは子供たちとコミュニケーションをとるのが楽しかったです。ベトナムの小学生たちはとてもフレンドリーで、たくさん話しかけに来てくれたり、お菓子をくれたりしたため、とても癒されました。

c・外国語コミュニケーションに関して重要なのは、わからないことをわからないままにしないことです。学んでいる途中である場合、相手の言っていることが100%理解できるということやすべての単語がわかるということはないと思います。そのため、勘違いしていたり、自分の知らないワードを知らないままにしまったりすることがあると思います。しかし、恥ずかしがらずに、自分の解釈であっているか質問したり、知らなかった単語の意味を質問してみたりすることが、より自分の語学力向上につながると感じました。

d・異文化でのチャレンジはバイクの後ろに乗ることでした。ベトナムではバイクが主な交通手段であり、研修先の小学校に行くときはいつもバイクを呼んで、バイクの後ろに乗って登校していました。日本でそのような経験がなかったため、とても慣れるのに時間がかかり、毎日怖かったです。特に朝は通勤ラッシュで、交通量も多いため、バイクで登校するのは精神的にストレスでした。また、ベトナムの小学生に英語を教えることもチャレンジでした。これまで、英語は学ぶものであり、教えるものではありませんでした。さらに、教育についてのノウハウやスキルを持っているわけではなかったため、不安でたまらなかったし、授業後はいつも疲労困憊でした。

e・ベトナムと日本の人々における違いの一つは、ベトナムの人々は朝から元気であるということです。私の周りでは、朝眠そうにしている人が多いですが、ベトナムの人たちは朝からパワフルで、特に小学生は朝の7時から元気よく遊んでいました。また、ベトナムでは音量が大きいと感じました。道のどこかではクラクションが鳴っているし、広場で行われているフェスティバルの音楽の音やマイクの音もとても大きいです。日本に帰ってきたときに、すごく静かであると感じたとき、ベトナムとのギャップに驚きました。

f・研修先の小学校では、ベトナム人の先生の中にも英語を話せる人と話せない人がいました。また、子供たちの中には全然英語を理解していない子供と、とても流暢に話せる子供がいました。

g・セカンドキャリアとして、英語の先生をやりたいと考えているため、今回の研修での職業体験はとても役に立つと感じました。また、今回の体験を通して、やりたくないのにやらなければならないなどというようなことにぶつかったときの対象法や、考え方について、どうすればいいのかを知ることができたため、今後同じような状況になったときに生かそうと思います。

h・ダナンは治安がよく、親切な人や、相手を敬う気持ちは持っている人が多いです。また、料理はすべて美味しく、近くにはスーパーがあるため、何不自由ない生活が遅れます。私は留学前、初めての海外であったこともあって、不安しかなく、とても怖いと思っていたのですが、これから行く方には安心して全力で楽しんでもらいたいです。留学前に何度かズームでミーティングがあるため、その際に質問



するなどして不安を解消しておくこともおすすめです。

研修期間	短期
プログラム (日程)	ベトナム・渡航型 FPT大学職業体験プログラム (2024年2月26日~3月29日)

A, 私は FPT 大学のプログラムでベトナムのダナンに行きました。研修は最初の 1 週間は FPT 大学で、ネイティブの先生からビジネスイングリッシュのレクチャーを受けました。そのあとの 4 週間は FPT セカンダリースクールでアシスタントとして英語を生徒たちに教えました。宿泊先はダナン市内にあるノスタルジア DS ホテルです。 B, 最も楽しかったことは、ベトナム人の友達ができたことです。FPT 大学でも日本語を学んでいる学生がいて、日本語をしゃべることができる学生とコーヒーを飲みながらいろいろな話をするのができたことがよかったです。 C, 外国語コミュニケーションに関して最も重要な点は積極的にコミュニケーションを取ることだと感じました。よく日本人はシャイでありコミュニケーションしないといわれていることは本当で、ベトナム人は気さくに話しかけてくるため、そのようにコミュニケーションを取るのは大事であると感じました。また、コミュニケーションを取るという点でメンターや生徒と英語で会話や授業を行ったため、英語のコミュニケーションの能力は向上したのではないかと思います。 D, 私はベトナムのダナンで日本製品のどのようなところが良いかということ聞き出すことに挑戦しました、ダナンではトヨタやダイキンに代表される日本メーカーが多数進出しており、タクシーの運転手やメンターなどにきき、それをまとめました。 E, 日本とベトナムの違いは、まず朝が早いという点で 7 時前から人々が動き出す点で昼には、多くの職場や学校で昼寝の時間が採られています。また、家ではなく、カフェなどに集まって友達や家族と時間を過ごしています。さらに、交通事情は日本と比べて劣悪で、運転がとても荒く、歩行者側からしたらとても怖いです。 F, FPT 大学では、ベトナム人のほかに、ベルギー、ブルネイ、ドイツといった他国からの留学生がいて、大学内は多様性に富んでいた。また、ダナンも観光地として外国人にとっても人気がある街で、オランダやフランスといった欧州から訪れている人が多い印象を受けた。 G, 私はダナンでの海外研修を通して、東南アジアの社会や特徴などを身をもって感じたため、これからの大学生活でベトナムだけでなく、東南アジアについてさらに研究し、将来は東南アジアとかがわりが深い職に就きたいと思います。 H, アドバイスとして、現地でのキャッシングの手数料が高いため事前に両替するか、日本円を多めに持っていくことをお勧めします。